

## 第2章 呉市の現況と課題

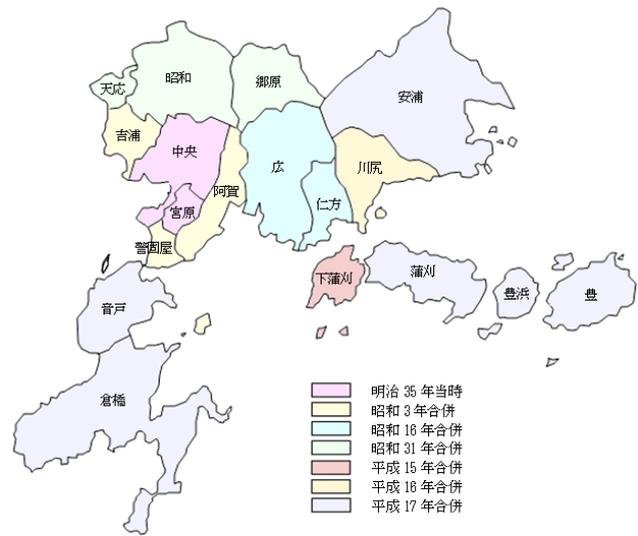
### 1 呉市の概況・特徴

#### ■呉市の成り立ち（市域の変遷）

本市は、明治の初めまで、半農半漁の四つの村落でしたが、明治19年、第二海軍区軍港の指定、同22年呉鎮守府の開庁とともに本格的な海軍基地の建設が進められ、軍港都市、海軍の町として発展してきました。

その後、明治35年10月1日に4町村（宮原、和庄、莊山田及び二川）が合併して市制を施行しました。近年では、平成15年から17年にかけて下蒲刈、川尻、音戸、倉橋、蒲刈、安浦、豊浜及び豊の近隣8町と合併して現在の市域となりました。

〔呉市域の変遷図〕

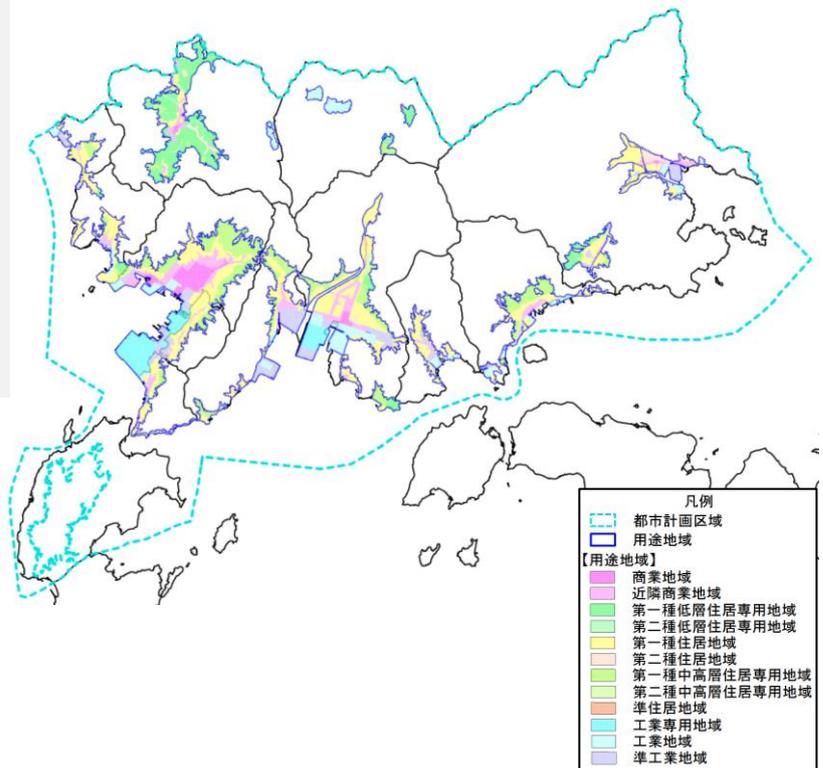


#### ■都市計画の状況

呉市では、都市計画法（昭和43年法律第100号）に基づき、広島圏都市計画区域（14,622ha）、川尻安浦都市計画区域（7,979ha）、音戸都市計画区域（1,246ha）が指定されています。

また、用途地域の指定は4,220haとなっており、都市計画区域の17.7%、市域全体の11.9%を占めています。

〔呉市の用途地域指定状況（都市計画区域内）〕



〔区域区分等の面積と人口・人口密度（令和2年3月時点現在）〕

	面積 (ha)	割合 (%)	人口 (千人)	割合 (%)	人口密度 (人/ha)
市域	35,283	100.0%	221,019	100.0%	6.3
都市計画区域	23,850	67.6%	209,985	95.0%	8.8
（広島圏）市街化区域	3,576	10.1%	175,184	79.3%	49.0
市街化調整区域	11,049	31.3%	4,883	2.2%	0.4
（川尻安浦）用途地域	644	1.8%	16,284	7.4%	25.3
用途白地	8,581	24.3%	13,634	6.2%	1.6
都市計画区域外	11,433	32.4%	11,034	5.0%	1.0

## ■「ものづくりのまち」呉市

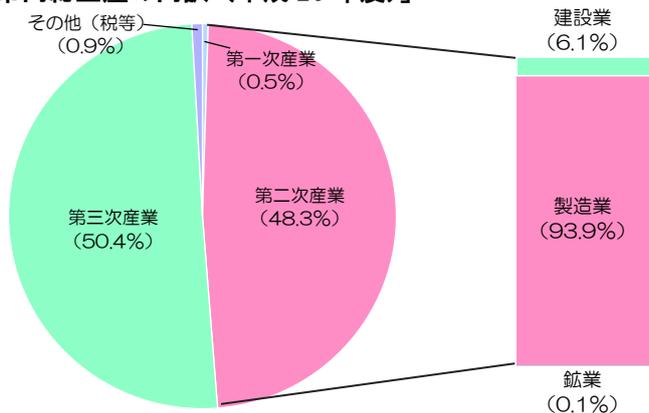
- ・呉市は、戦後、旧軍港市転換法（昭和 25 年法律第 220 号）の施行により、海軍関連施設跡地に多くの企業を迎えることに成功しました。
- ・現在では、瀬戸内海における有数の工業都市として、広島県の産業経済の発展をけん引しており、ものづくり産業の発展が地域の活性化に結び付いています。また、造船や鉄鋼等の重工業や精密加工機械製造等の層の厚い産業を形成するとともに、世界屈指の技術や世界的に高いシェアを持つ企業が立地する等、世界に誇る「ものづくりのまち」として発展してきました。そのような中、呉市の産業の発展を推進するため、阿賀マリノポリスや苗代工業団地等の産業拠点を創出してきました。
- ・呉市内の総生産における第二次産業の割合は、48.3%と高く、そのうち、93.9%を製造業が占めています。
- ・製造業出荷額の県内に占める割合をみると、呉市は、広島市に次ぐ第 2 位となっています。

### 【ものづくり産業】



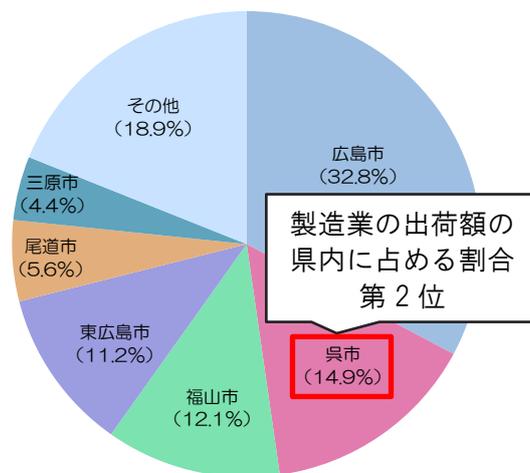
出典：呉市  
「呉市都市計画マスタープラン（平成 28 年度）」

### 【市内総生産の内訳（平成 29 年度）】



※参考  
第二次産業の割合：中核市平均 27.7%

### 【県内の製造業構成比（平成 29 年度）】



製造業の出荷額の  
県内に占める割合  
第 2 位

出典：広島県「市町民経済計算結果（平成 29 年度）」

## ■斜面地に形成された市街地

- ・呉市は、急しゅんな地形と延長が約 300km に及ぶ海岸線を有し、中央地区は、灰ヶ峰と休山に囲まれる等、特異な地理的条件を有しています。
- ・明治 35 年に市制を施行し、昭和 18 年には、人口 40 万人を超える日本一の海軍工廠しょうのまちとして急速に発展し、急激な人口増加を伴いました。当時、呉市の平たん部は、その多くを軍が使用していたため、新たな海軍関係者や職工を始めとする住民の居住場所は、山腹まで広がり、生活道路等の基盤整備がされないまま斜面地に市街地が拡大しました。



出典：呉市「呉市都市計画マスタープラン（平成 28 年度）」

## ■呉市の多彩な地域資源と観光まちづくり

・呉市は、明治 22 年に呉鎮守府が開庁以来、海軍による優れた技術が培われ、東洋一の軍港として栄えてきました。その歴史等を紹介する呉市海事歴史科学館（以下「大和ミュージアム」といいます。）など旧海軍ゆかりの観光資源があります。また、島嶼部など周辺エリアには、遣唐使船（倉橋）、北前船（御手洗）、朝鮮通信使（下蒲刈）等、多様な歴史や文化、瀬戸内海の豊かで美しい自然も有しています。これらの観光資源は、市内全域に広く点在しています。

<p>大和ミュージアム</p> <p>10 分の 1 戦艦「大和」を始め、呉の歴史と造船・科学技術を紹介している。平成 17 年 4 月開館。令和元年 10 月には累計来館者数 1,400 万人を達成</p>		<p>入船山記念館</p> <p>国重要文化財に指定された「旧呉鎮守府司令長官官舎」を中心に、旧東郷家住宅離れなど日本遺産の構成文化財が点在する、近代日本らしい明期を感じることでできる施設</p>	
<p>御手洗町並み保存地区</p> <p>江戸時代から昭和初期に至るまで風待ち・潮待ちの港町として栄え、今もその痕跡を集落内にとどめている。平成 6 年に重要伝統的建造物群保存地区として選定</p>		<p>グリーンピアせとうち</p> <p>豊かな自然に囲まれた、瀬戸内海の絶景を楽しむリゾート施設で、プールやグラウンド・ゴルフ、芝広場などを整備</p>	
<p>県民の浜</p> <p>海水浴を始めいろいろなマリンスポーツが楽しめる一大健康保養地。「日本の渚・百選」に選ばれている。</p>		<p>松濤園</p> <p>三之瀬瀬戸の急潮を借景に、松を主樹としたみどり豊かな落ち着いた潤いのある庭園で、朝鮮通信使が立ち寄った下蒲刈の歴史や文化などを紹介している。</p>	
<p>野呂高原ロッジ</p> <p>新鮮な食材を生かした料理や、野呂山で捕れた猪のぼたん鍋が評判の宿。瀬戸内海国立公園の四季折々の景色と標高 800m からのすばらしいロケーションを楽しむ。</p>		<p>桂浜温泉館</p> <p>露天風呂・打たせ湯などを楽しむことができる日帰り温泉施設。近くには復元遣唐使船を展示した「長門の造船歴史館」がある。</p>	

【市内の主要観光施設の分布】



出典：呉市資料

## 2 呉市を取り巻く状況

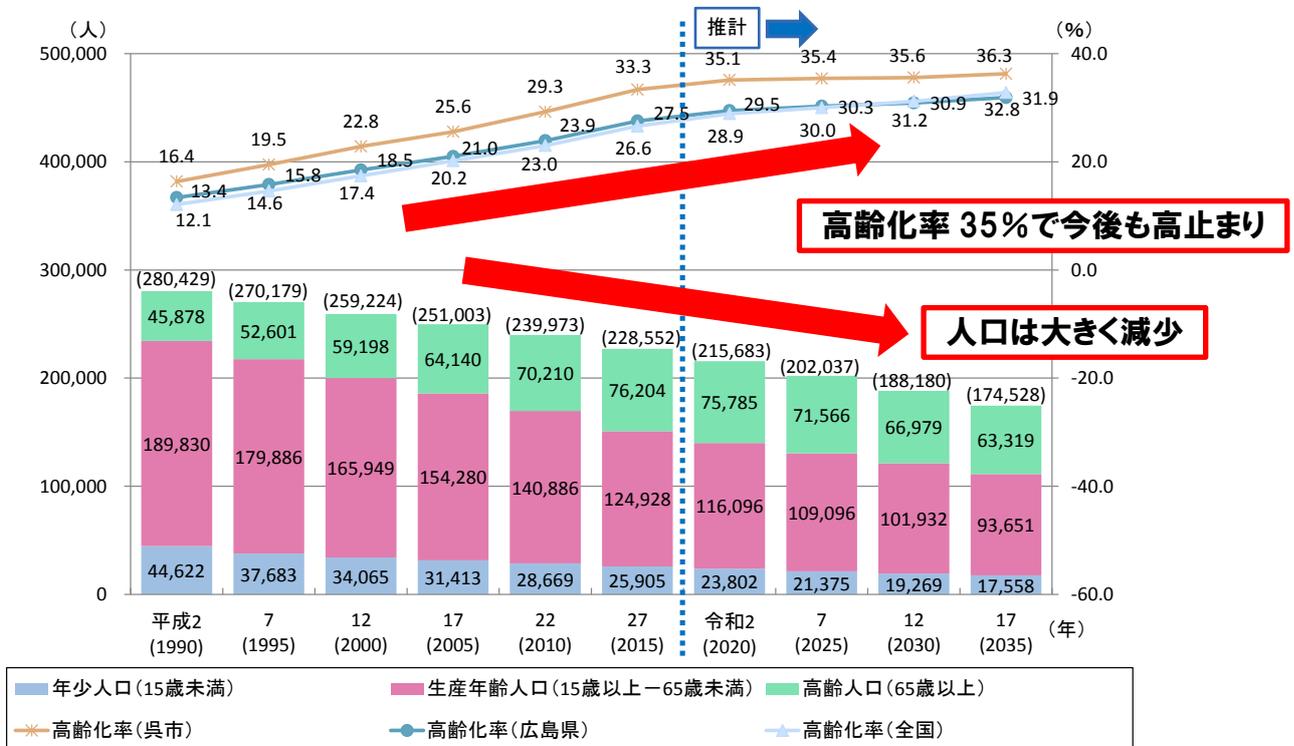
### (1) 人口

#### ■人口の推移 - 今後も人口減少が進行することが想定されています。

- ・呉市の人口は、減少を続けており、令和12年には、20万人を下回り、令和17年には、約17.5万人になると想定されています。
- ・今後、年齢3区分人口の比率に大きな変化はありませんが、全ての区分で人口が減少することが想定されています。
- ・高齢者数は平成27年にピークを迎えたものの、高齢化率は約35%と高止まり、令和17年には、高齢人口：生産年齢人口=1：1.5程度となります。

呉市立地適正化計画で用いる人口推計値は、将来における人口減少の課題を明確にするため、平成27年（2015年）の国勢調査結果を踏まえ、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」といいます。）の推計値を用いるものとします。

【年齢3区分人口と将来人口推計】



出典：総務省「国勢調査」，社人研「日本の地域別将来推計人口」

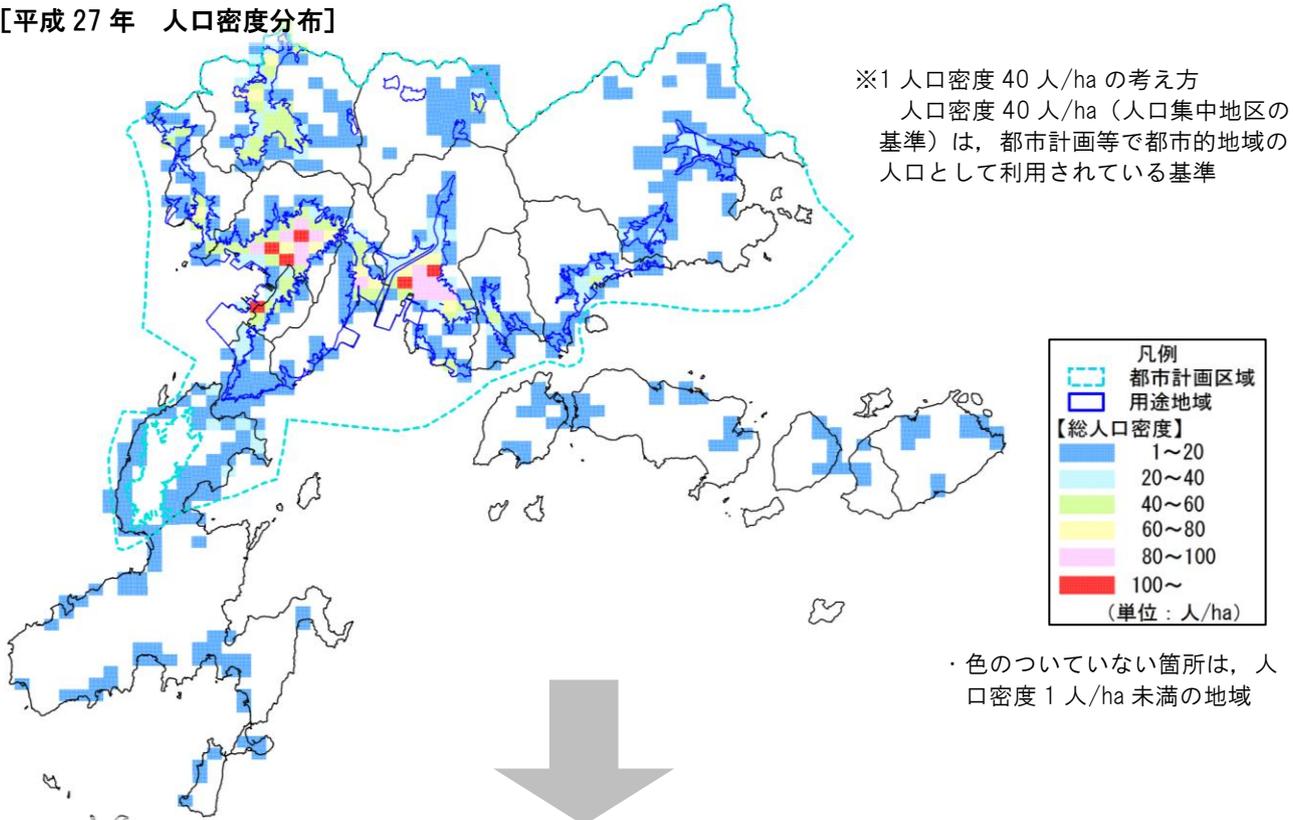
※総数には年齢不詳を含むため、一致しません。

人口減少・少子高齢化が進行することで、地域社会の活力、経済活力、生活機能などの低下による都市の衰退が懸念されるため、今後の人口減少・少子高齢化に対応した持続可能で効率的な都市構造を構築する必要があります。

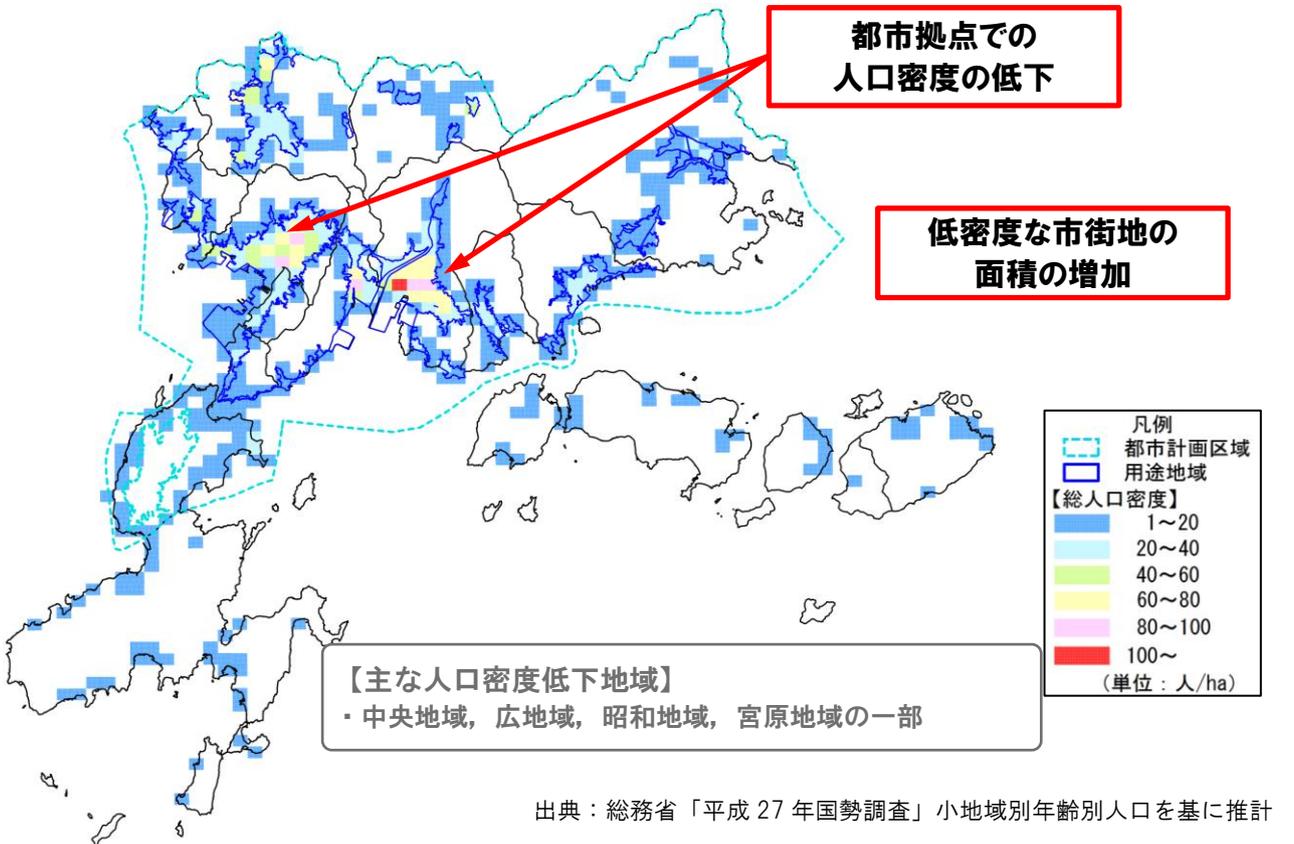
■人口密度分布 - 都市拠点での密度が低下，低密度市街地の面積が増加しています。

- ・平成 27 年では，都市拠点である中央地域と広地域に 60 人/ha 以上の人口密度を有する地域が分布しています。令和 17 年には，両地域でも人口密度の大幅な低下が想定されています。また，人口密度が 40 人/ha<sup>※1</sup>を下回る低密度な市街地の面積が増加することが想定されています。

[平成 27 年 人口密度分布]



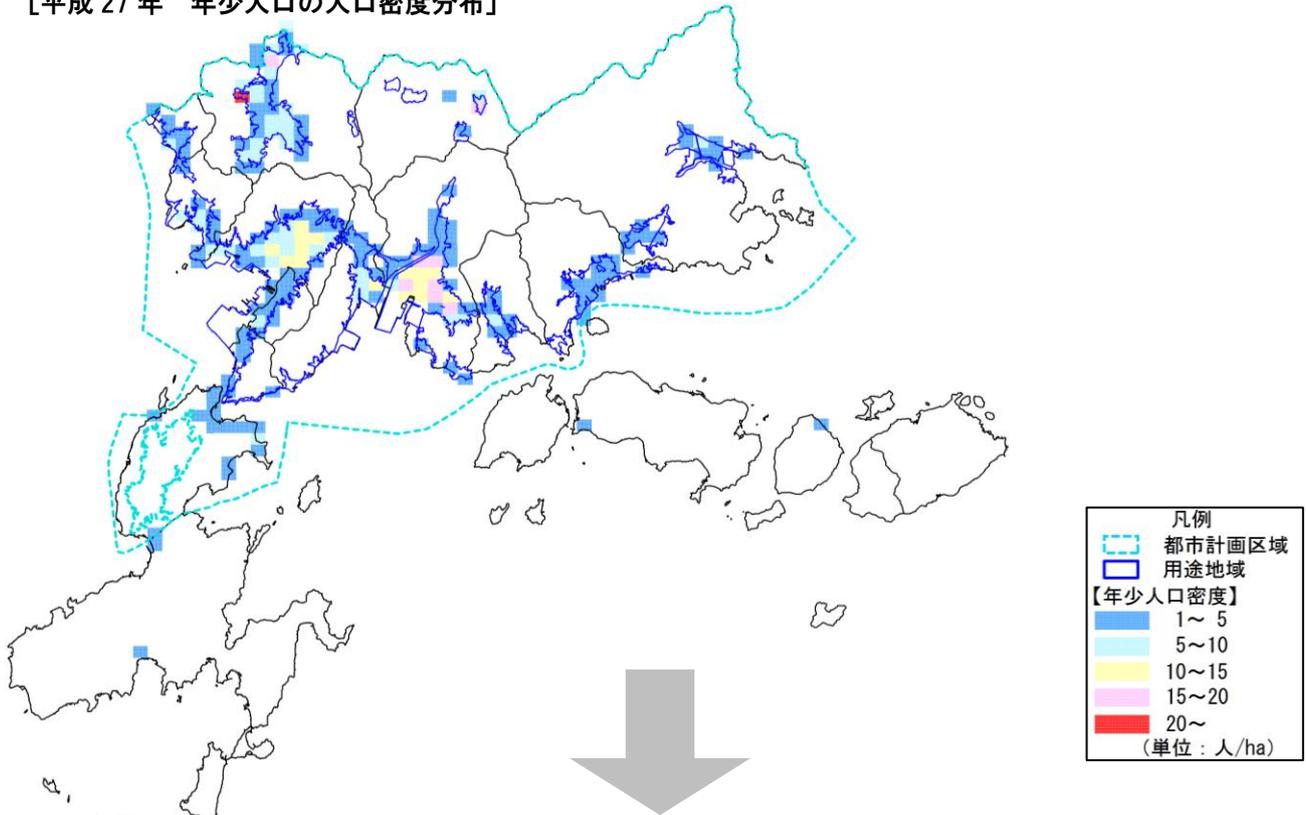
[令和 17 年 人口密度分布（推計）]



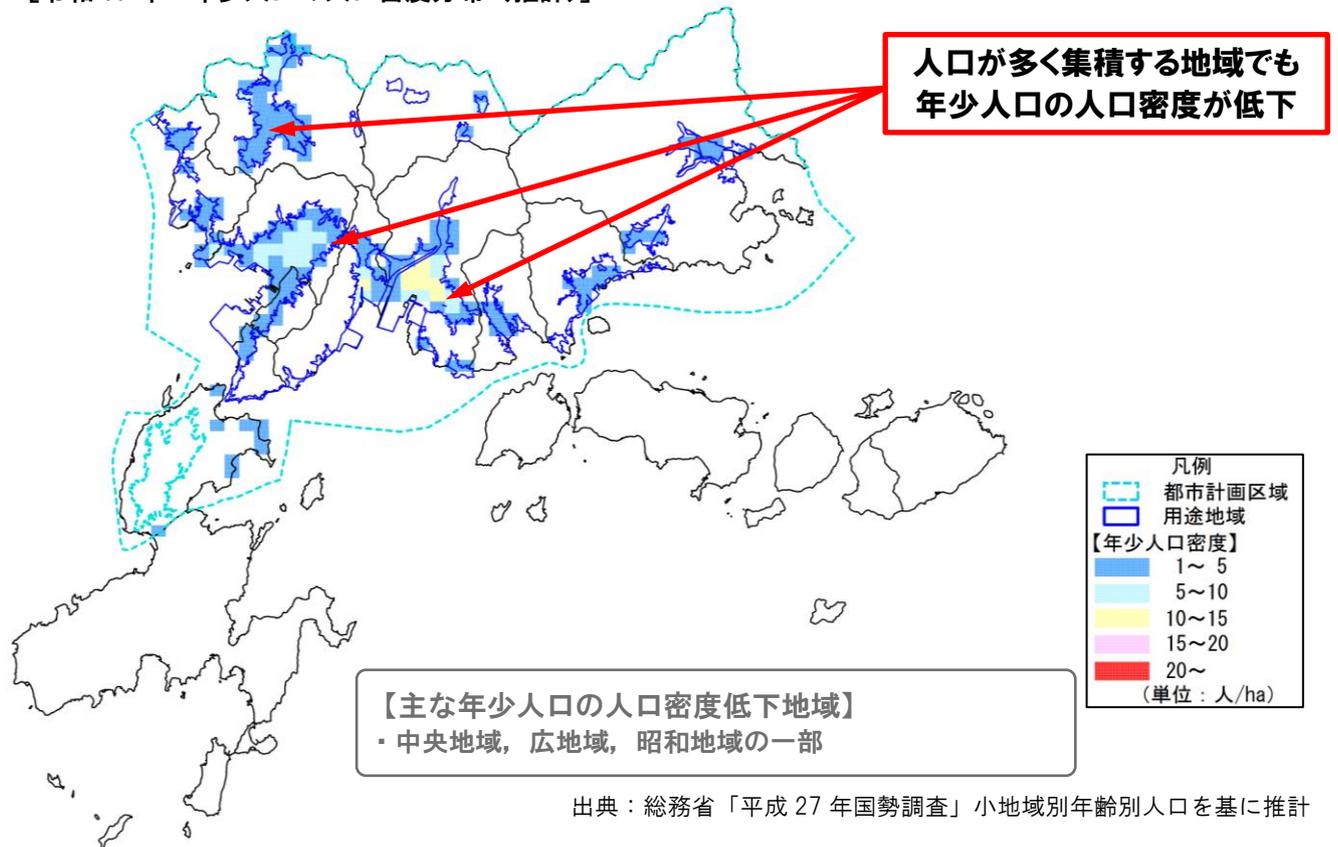
人口密度の低下によって，都市活力の低下や人口集積を必要とする生活サービス施設の維持の困難化が懸念されるため，居住の誘導により，人口密度を維持する必要があります。

- ・年少人口の人口密度分布の推計では、市内全域で人口密度が低下すると考えられ、本市の中でも人口集積の高い中央や広、昭和地域においても人口密度の低下が想定されています。

[平成 27 年 年少人口の人口密度分布]



[令和 17 年 年少人口の人口密度分布 (推計)]

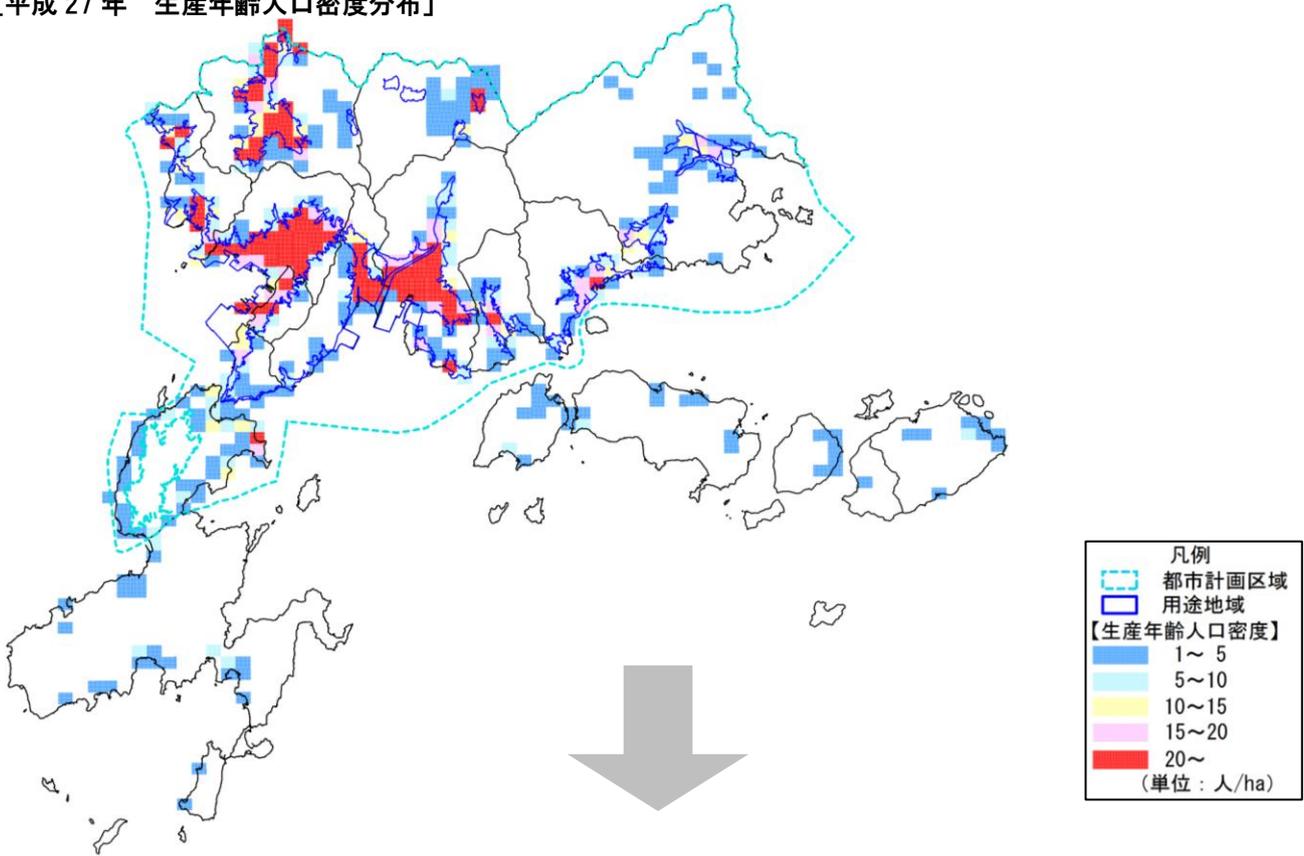


出典：総務省「平成 27 年国勢調査」小地域別年齢別人口を基に推計

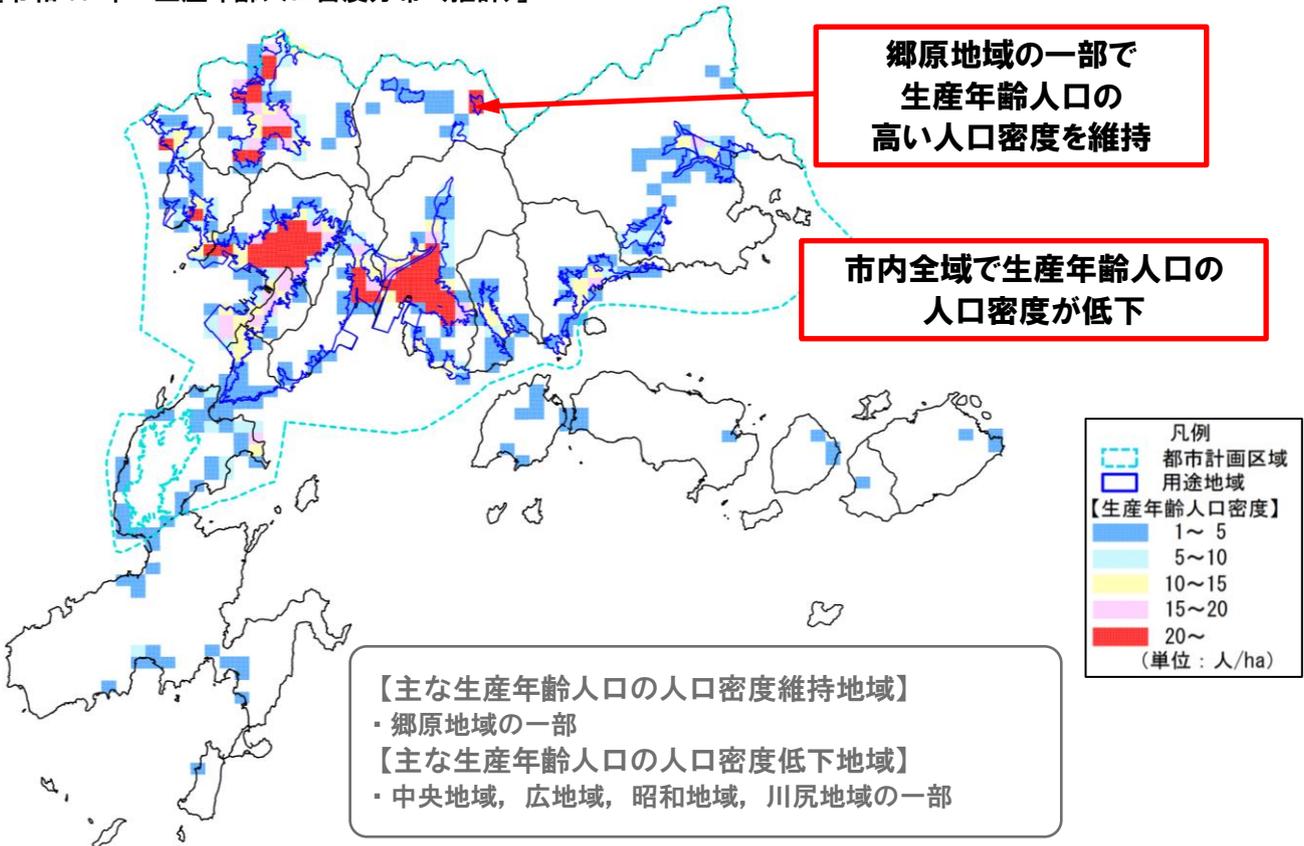
年少人口の規模に応じた子育て関連・教育施設の配置やそれらの配置を踏まえた居住の在り方を検討する必要があります。

・生産年齢人口の人口密度分布の推計では、市内の各地域で人口密度の低下が想定される一方で、郷原地域の一部では高い人口密度を維持しています。

[平成 27 年 生産年齢人口密度分布]



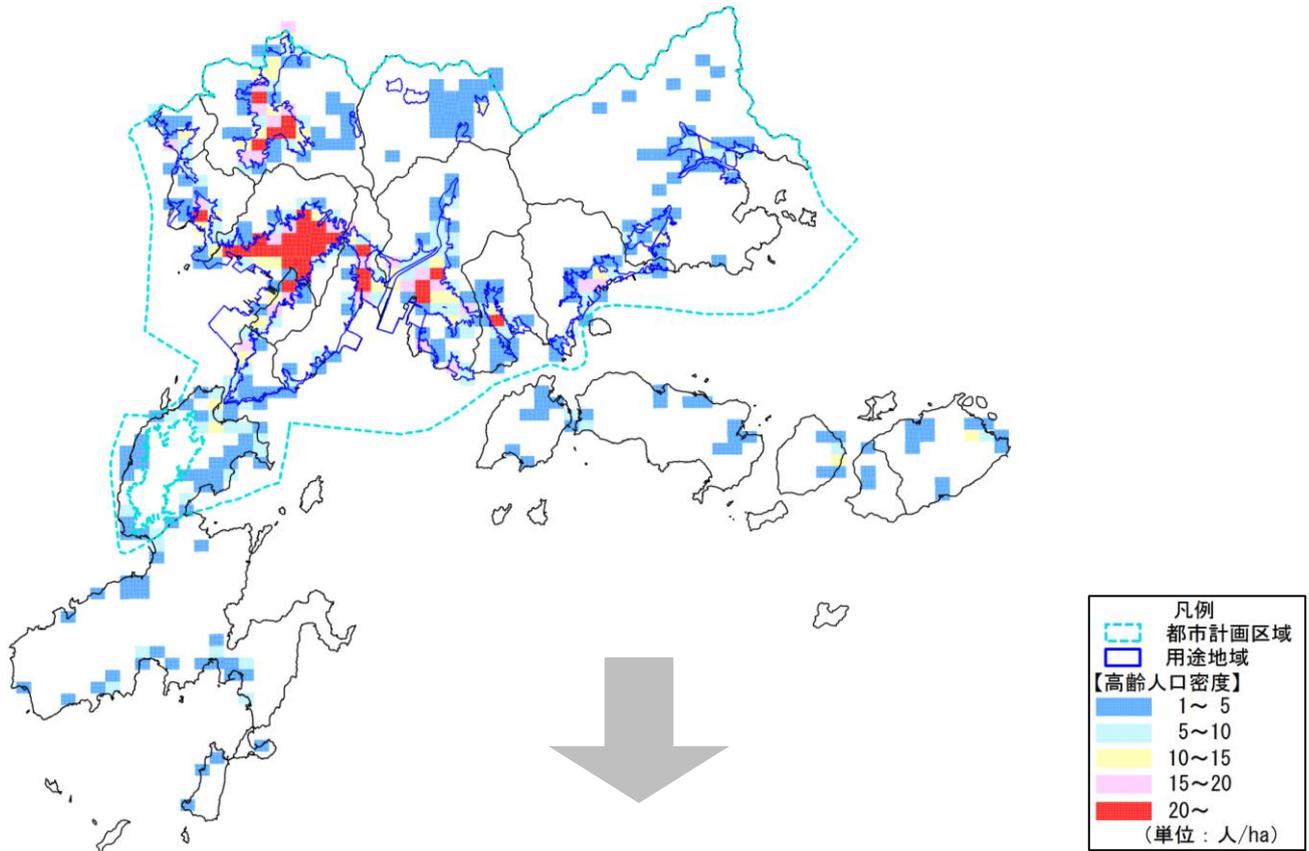
[令和 17 年 生産年齢人口密度分布 (推計)]



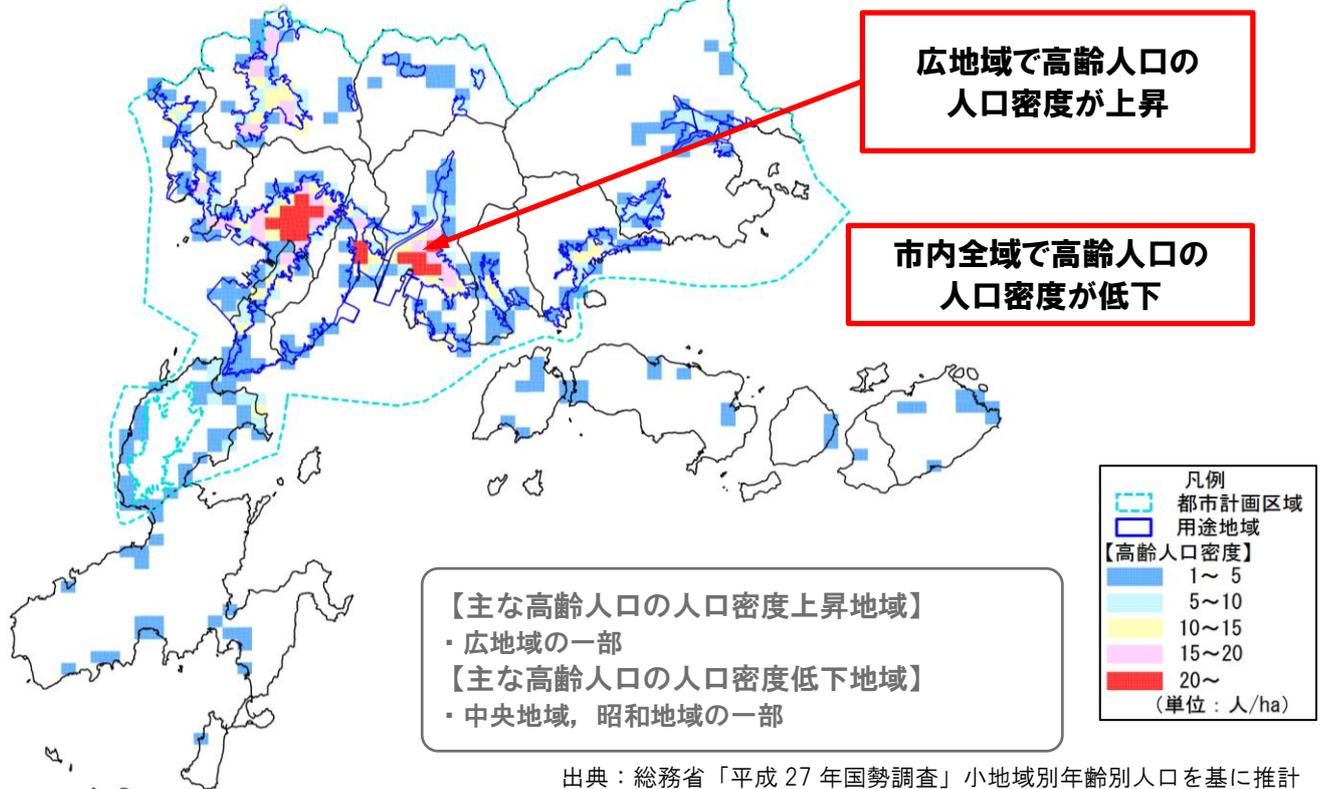
出典：総務省「平成 27 年国勢調査」小地域別年齢別人口を基に推計

・高齢人口の人口密度分布の推計では、市内全域で人口密度の低下が想定され、特に人口集積の高い中央、昭和地域では大幅に低下しています。一方で広地域では上昇しています。

[平成 27 年 高齢人口密度分布]



[令和 17 年 高齢人口密度分布 (推計)]

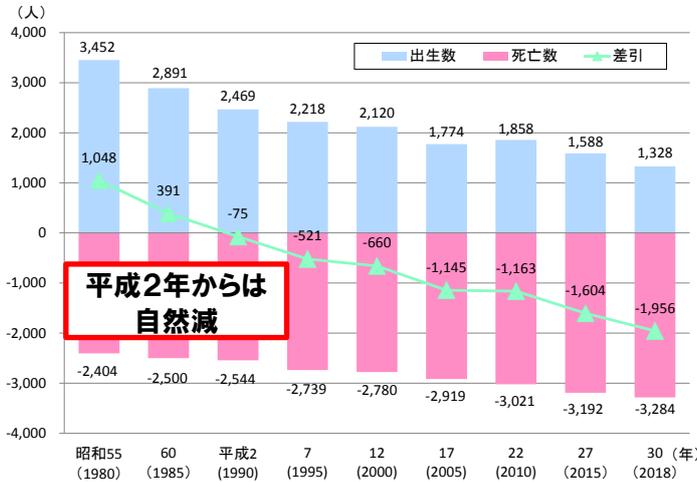


高齢人口の規模に応じた医療・福祉施設の配置やそれらの配置を踏まえた居住の在り方を検討する必要があります。

■人口動態（自然動態） - 自然減となり、人口が減少しています。

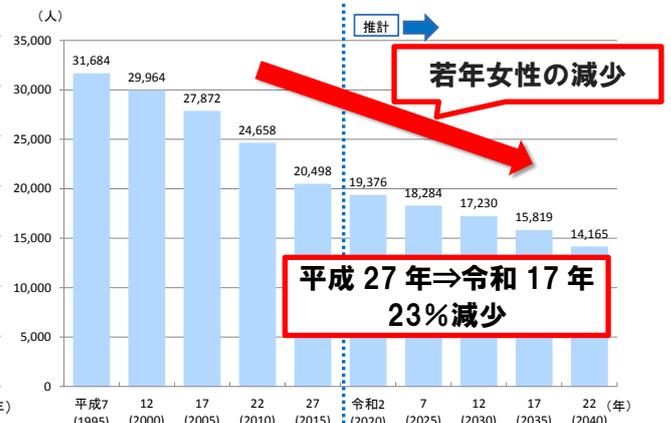
- ・減少傾向が続く出生数に対して、高齢化を背景とした死亡数の増加は続き、平成2年からは死亡数が出生数を上回る「自然減」となっています。
- ・合計特殊出生率は増加傾向にあるものの、若年女性人口（20歳～39歳）の減少が顕著であり、出生数の低下に大きく影響しています。

【自然動態と出生・死亡者数の推移】



出典：厚生労働省「人口動態統計」

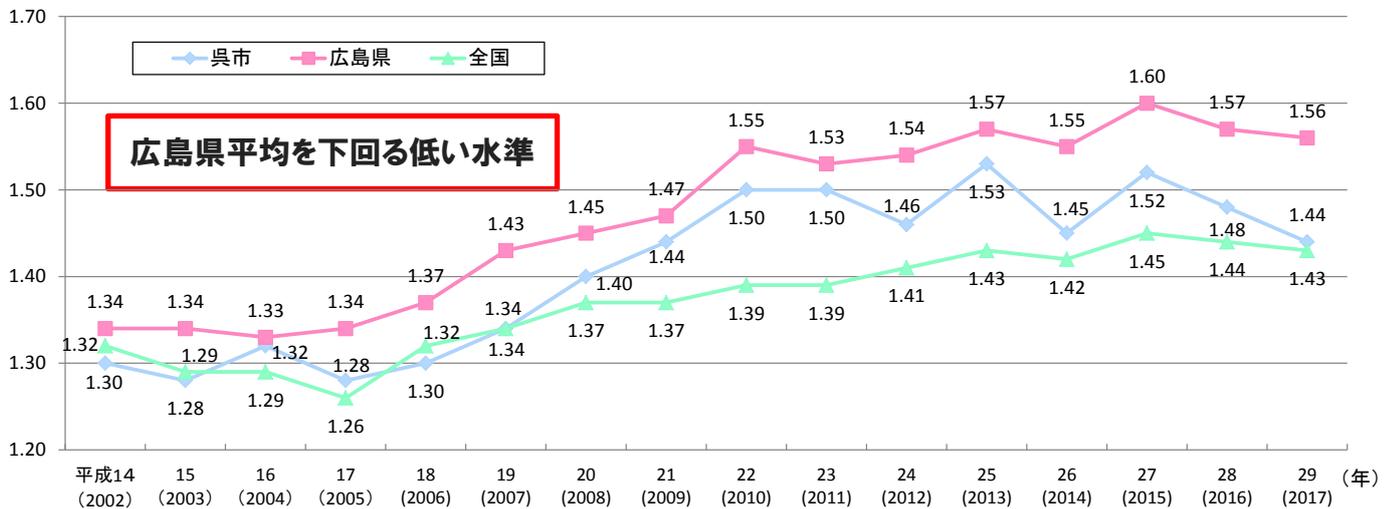
【若年女性人口(20歳～39歳)の推移と推計】



出典：総務省「国勢調査」、社人研「日本の地域別将来人口推計」

- ・一人の女性が一生に産む子どもの平均数を示した合計特殊出生率は、広島県平均を下回る低い水準で推移しています。

【合計特殊出生率の推移】



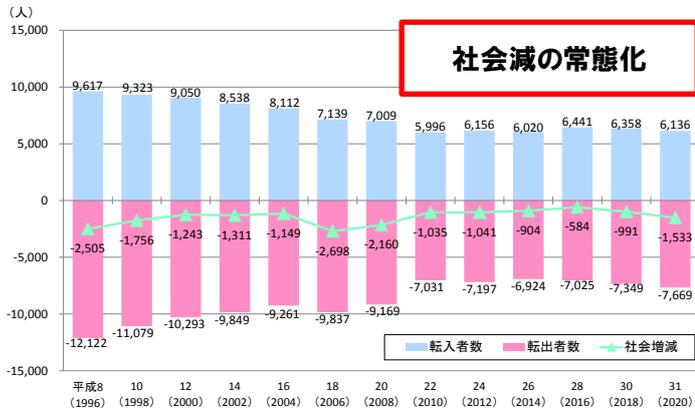
出典：厚生労働省「人口動態統計」

若年女性の減少は、更なる人口減少を加速させ、地域活力やにぎわいなどの都市活力の低下を助長させるため、若年女性が働きやすい環境を整える等、若年女性の減少対策に取り組む必要があります。

■人口動態（社会動態） - 社会減が常態化しています。

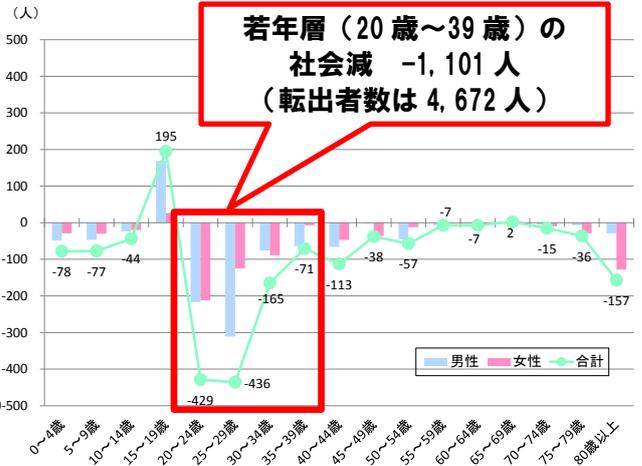
- ・ 転入数，転出数ともに減少傾向にあり，毎年 1,000 人程度の「社会減」が続いていましたが，近年は改善傾向にあります。
- ・ 若年層（20 歳～39 歳）の転出超過が顕著な状況です。

【社会動態と転入・転出者の推移】



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

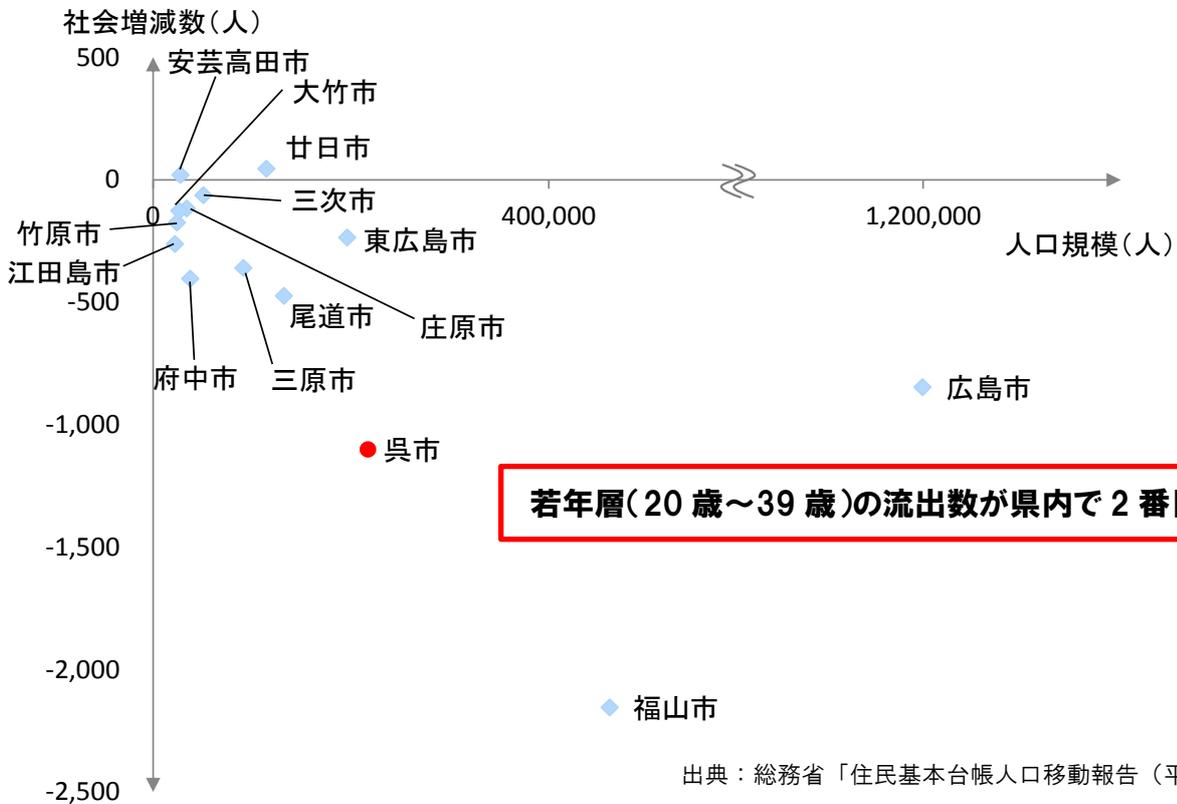
【年齢別転出入人口移動（平成 31 年）】



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告（平成 31 年）」

- ・ 広島県内の各市の若年層（20 歳～39 歳）の社会増減の状況を見ると，全ての市で減少しています。また，呉市の若年層の社会増減は，人口同規模の都市の東広島市や尾道市よりも多く，県内で 2 番目に多くなっています。

【広島県内各市の若年層（20 歳～39 歳）の社会増減の状況（平成 31 年）】

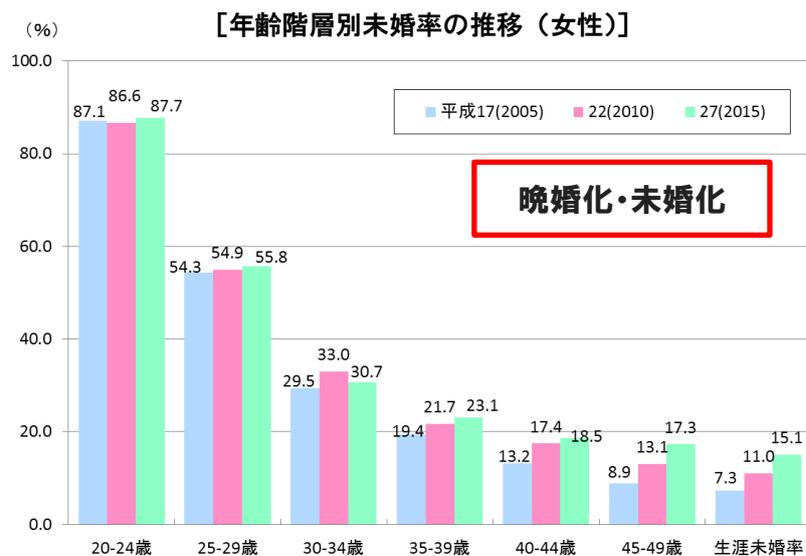
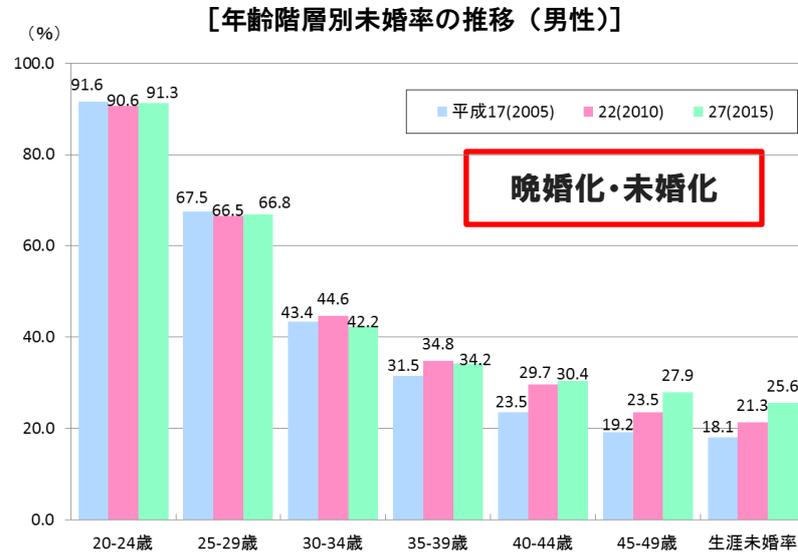


出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告（平成 31 年）」

労働力を支える若年層の流出は，子育て世代の減少につながり，更なる人口減少を加速させ，地域活力やにぎわいなどの都市活力の低下を助長させるため，若年層が定住しやすい環境を整備する必要があります。

## ■年齢階層別未婚率の推移 - 男女間の未婚率に差が生じています。

- ・平成 17 年から平成 27 年までの年齢階層別の未婚率の推移をみると、男性は 20 歳～34 歳で微減し、女性は 20 歳～34 歳で微増しており、女性の晩婚化が進行しています。また生涯未婚率※1 は男女ともに約 1.5 倍程度増加しており、未婚化が進行しています。
- ・男女の未婚率の状況を比較すると、男性の未婚率が女性の未婚率よりも高い状況にあります。



※1 生涯未婚率

50 歳時点で一度も結婚したことのない人の割合で、45 歳～49 歳の未婚率と 50 歳～54 歳の未婚率の平均で表します。

出典：総務省「国勢調査」

晩婚化・未婚化の進行は、出生数の減少による更なる人口減少を加速させるため、結婚しやすい環境を整えるとともに、結婚後に呉市に定住してもらえる取組を行う必要があります。

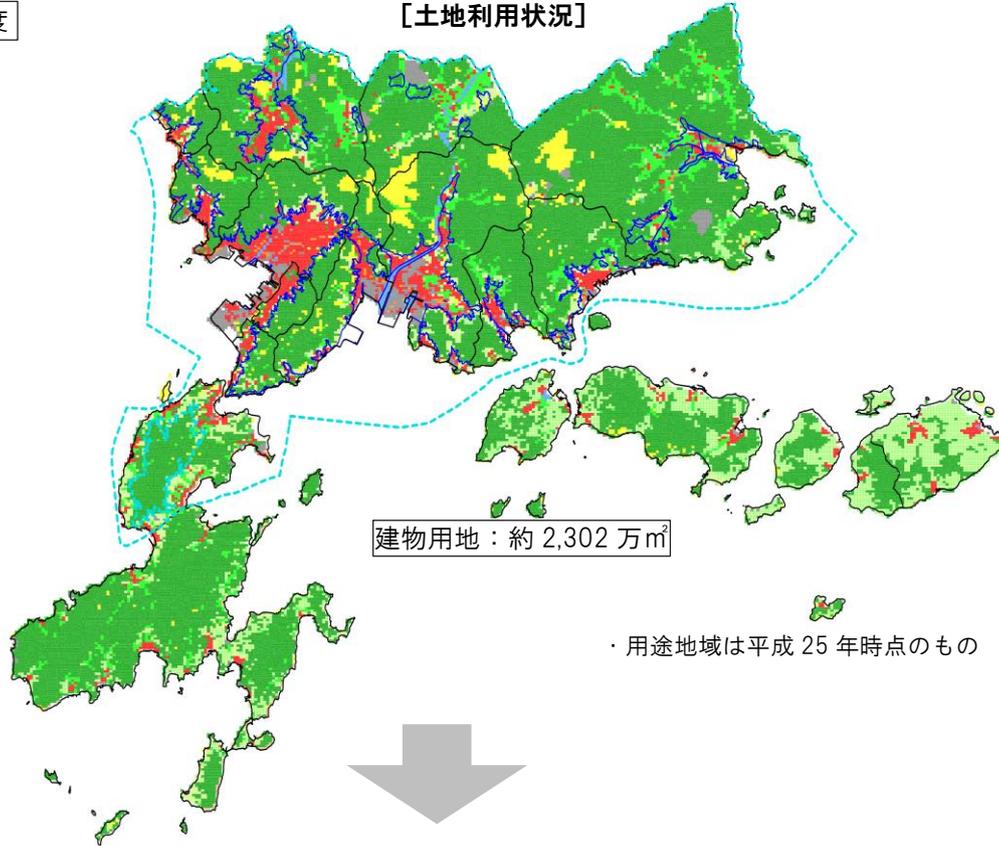
## (2) 土地利用

### ■土地利用 - 都市的土地利用<sup>※1</sup>が増加しています。

- ・ 農地，森林が減少し，都市的土地利用面積が増加しています。
- ・ 建物用地の面積は，呉市の人口が減少に転じた昭和 51 年度の約 2,302 万㎡から平成 28 年度に約 4,708 万㎡となり，約 2 倍に増加しています。なお，平成 21 年度では 4,420 万㎡と近年は都市的土地利用の増加が鈍化しています。

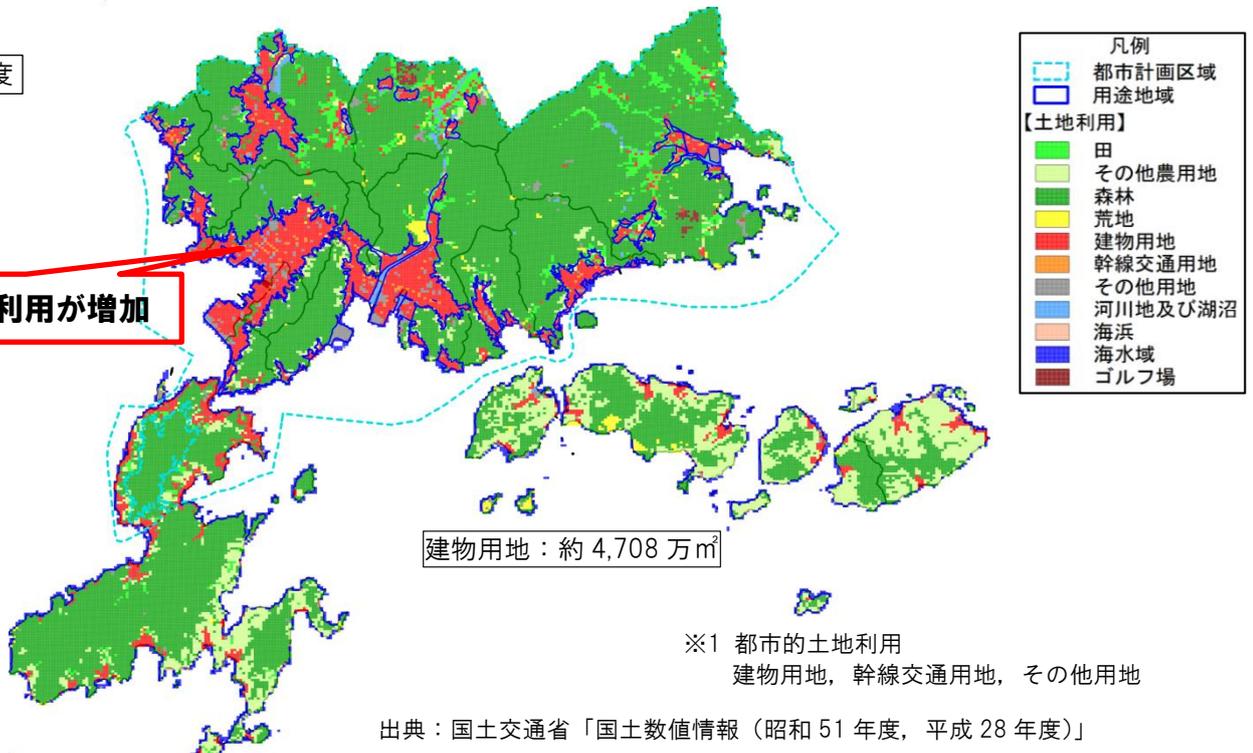
昭和 51 年度

[土地利用状況]



平成 28 年度

都市的土地利用が増加

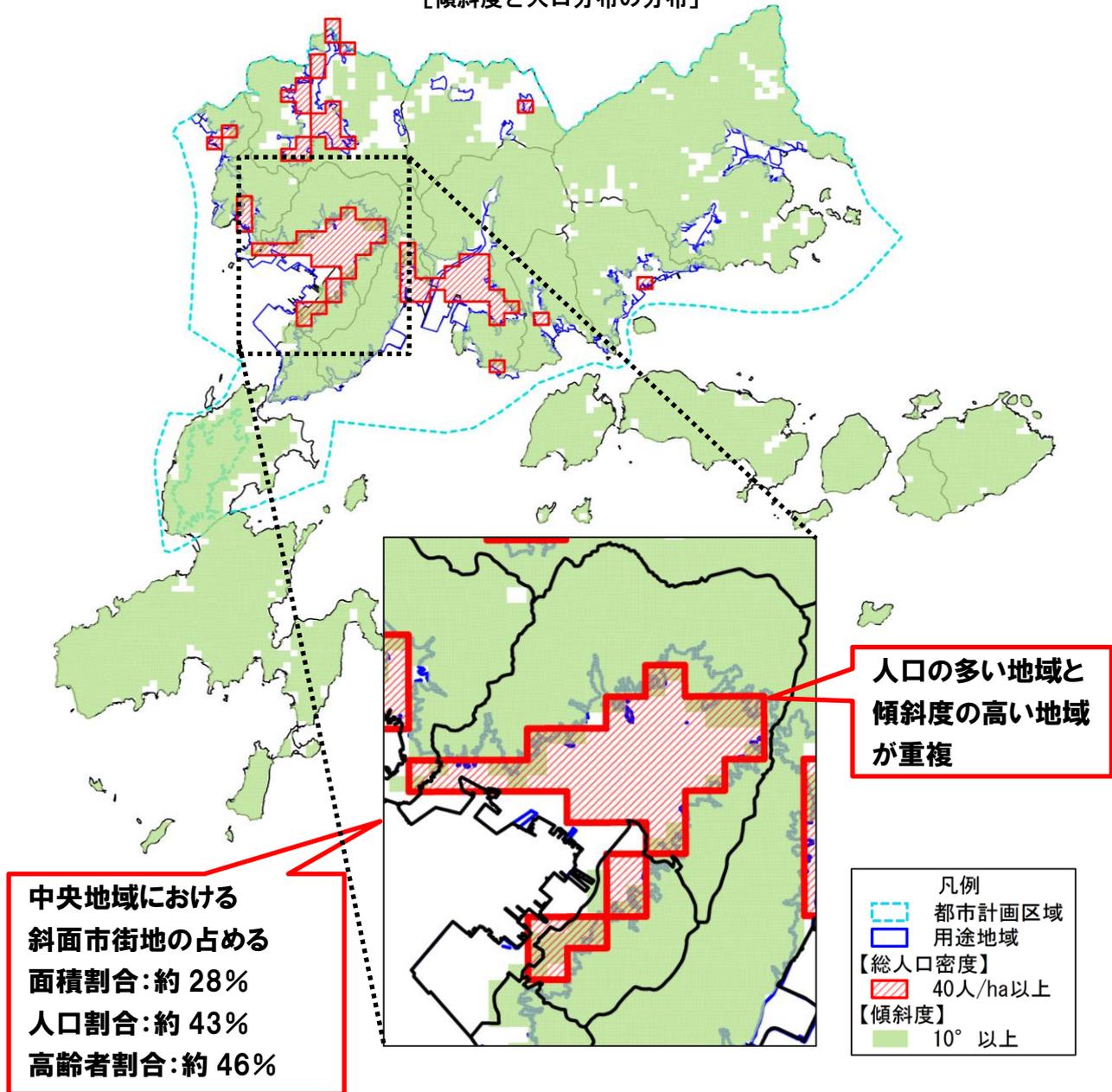


都市的土地利用が増加しているものの，人口が減少していることから，人口密度の低下が懸念されます。持続可能で効率的な都市経営を進める上で，人口規模に適したコンパクトな市街地に転換する必要があります。

■傾斜度と人口密度との関係 - 傾斜度の高い地域にも、多くの市民が居住しています。

- ・ 呉市の地形的な特徴として、平たん地が少なく傾斜度の高い地域が多く存在します。
- ・ 傾斜度の高い地域にも、市街地が広がり、多くの市民が居住しています。
- ・ 中央地域では、斜面市街地※<sup>1</sup>の割合が約 28%，斜面市街地に居住する人口の割合は約 43%と非常に高い状況にあります。

【傾斜度と人口分布の分布】



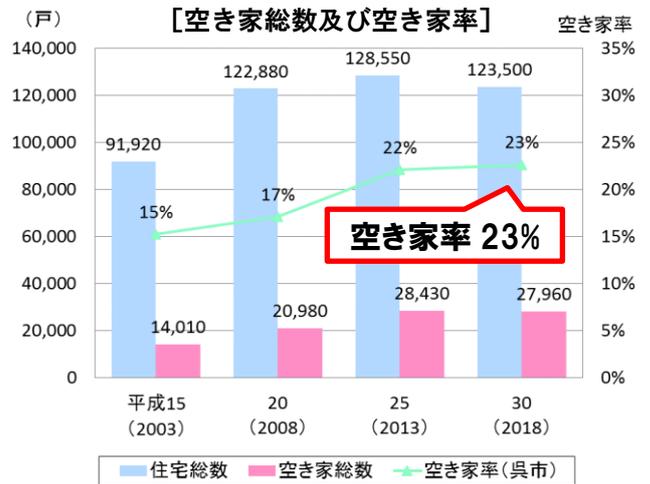
出典：国土交通省「国土数値情報（平成 23 年度）」，総務省「平成 27 年国勢調査」，呉市「呉市都市計画マスタープラン（平成 28 年度）」

※1 斜面市街地の定義  
傾斜が 10 度以上で、かつ、人口密度が 40 人/ha の地域

呉市の地形的特性として斜面市街地が多く存在し、一般的に居住に適さない傾斜度の高い地域から利便性の高い平たん地へと居住を誘導する必要があります。

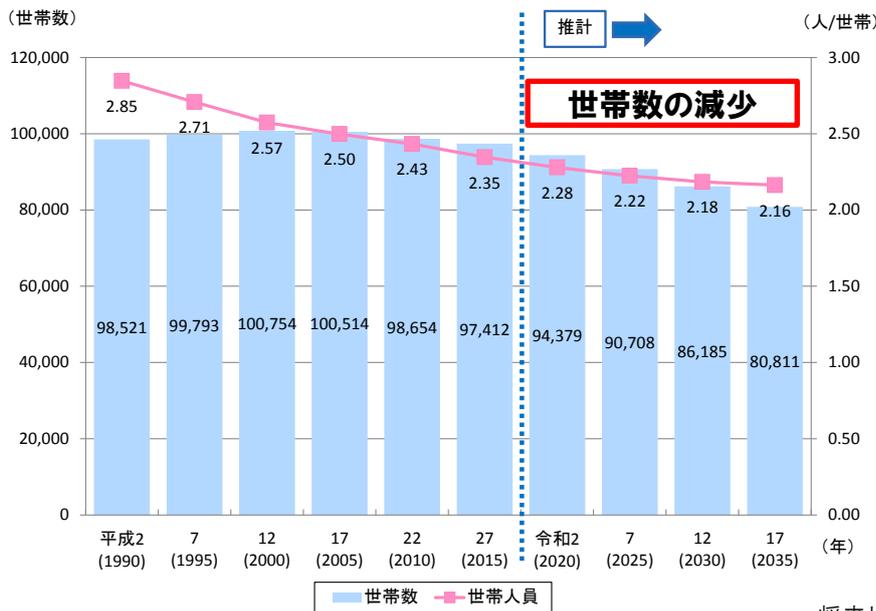
■空き家 -空き家率の更なる増加が想定されます。

・空き家総数は平成 25 年にピークを迎え、その後減少に転じ、平成 30 年で 27,960 戸（県内第 6 位）になっていますが、依然として空き家率は増加傾向にあります。



出典：総務省「住宅・土地統計調査」

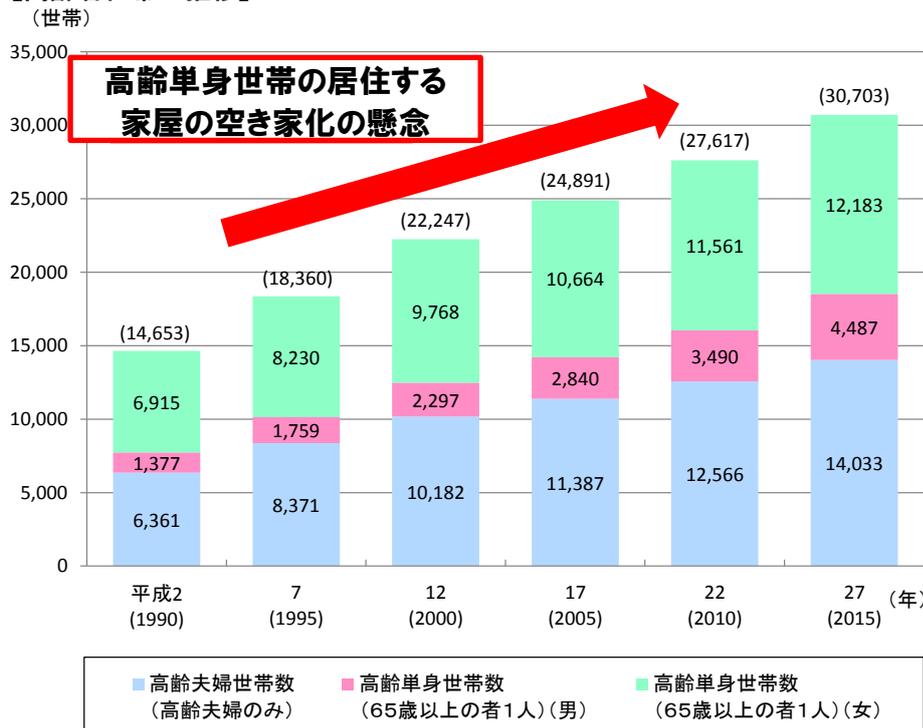
【世帯数の推移】



・将来世帯数はトレンド推計より算出

出典：総務省「国勢調査」

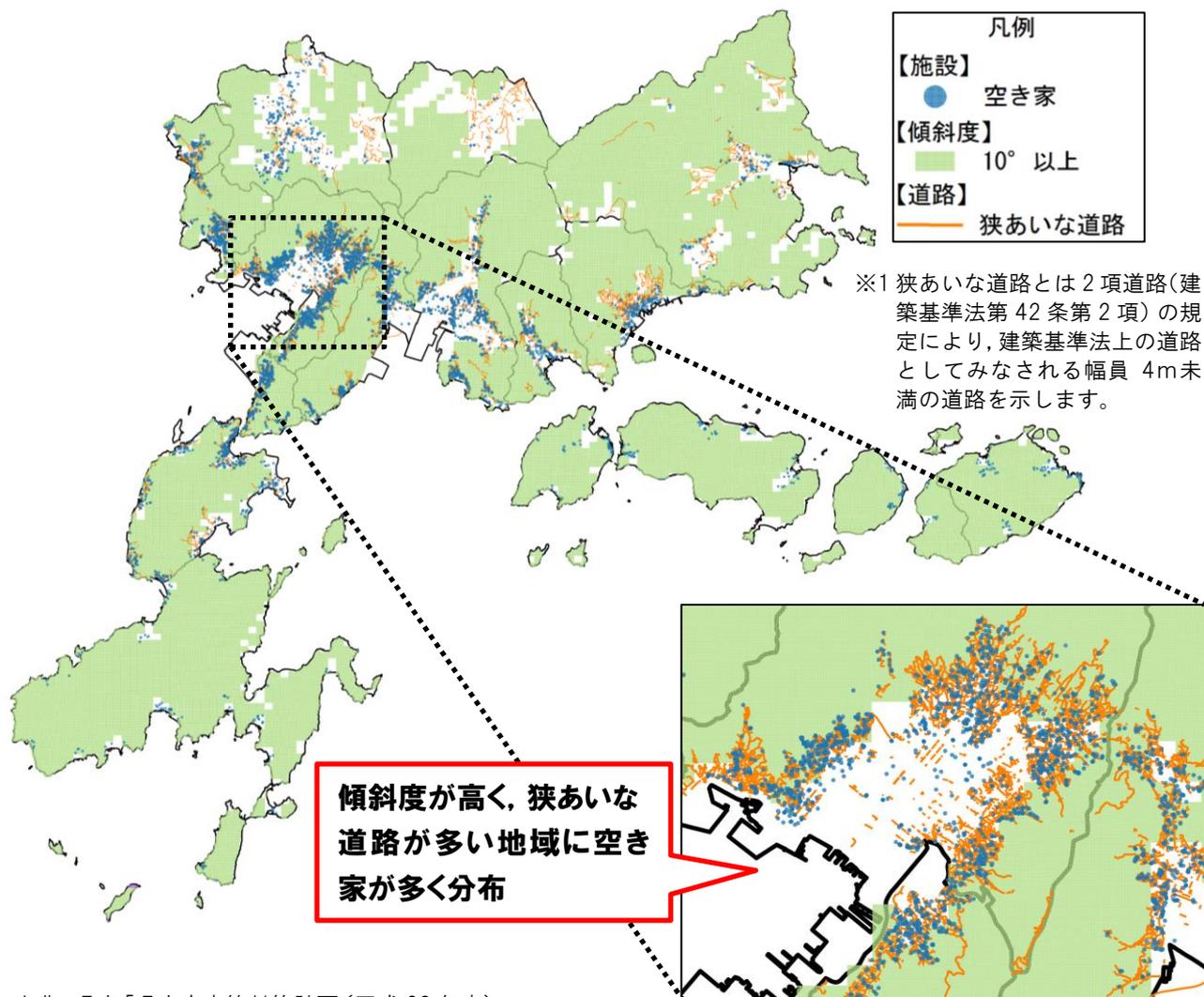
【高齢者世帯の推移】



出典：総務省「国勢調査」

- ・市内には斜面地等を始めとして狭あいな道路<sup>※1</sup>が多く存在しており、幅員 4.0m未満の道路割合は、道路全体で見ると、旧呉市（約 38%）、川尻町（約 44%）、安浦町（約 39%）、音戸町（約 47%）となっています。
- ・呉市全体で空き家が見られ、斜面地に限らず平地部でも発生していますが、傾斜度が高く、狭あいな道路が多い地域では特に多く分布しています。

【空き家と居住環境の関係（呉市空き家実態調査（平成 27 年度））】



出典：呉市「呉市空家等対策計画（平成 28 年度）」  
国土交通省「国土数値情報（平成 23 年度）」  
呉市資料

・呉市空き家実態調査（平成 27 年度）では、空き家として判定された一戸建ては 4,872 戸となっています。

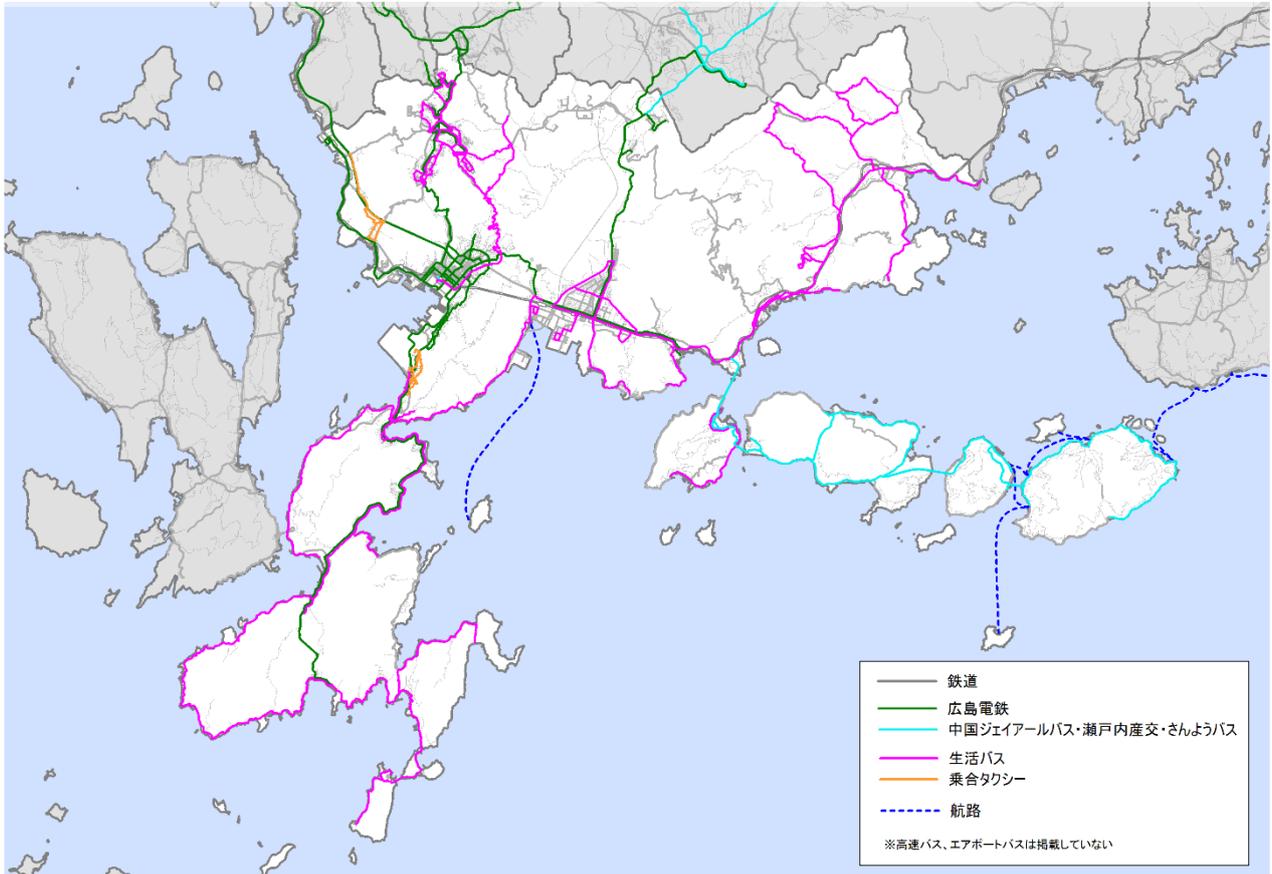
今後人口減少等に伴い空き家が増加することが懸念されます。生活安全性やコミュニティを確保する上でも、地域特性に応じて空き家の利活用や跡地の管理等に取り組み、居住環境の改善を図る必要があります。

### (3) 都市交通

#### ■公共交通ネットワークと利用状況 - 公共交通の利用者が減少しています。

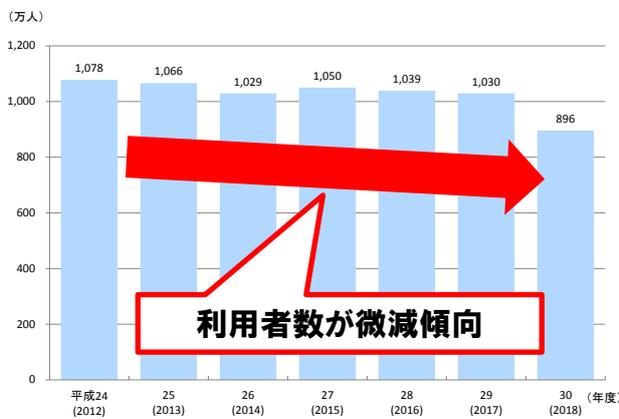
- ・ JR 呉線の年間の乗車人員は、平成 19 年度以降、微減傾向にあります。
- ・ 市域の大半を担う広島電鉄株式会社が運行する市内路線バスの年間の乗車人員は、減少傾向にあります。

【公共交通ネットワーク】



出典：呉市資料

【JR市内駅年間乗車人員の推移】



出典：JR 西日本広島支社資料

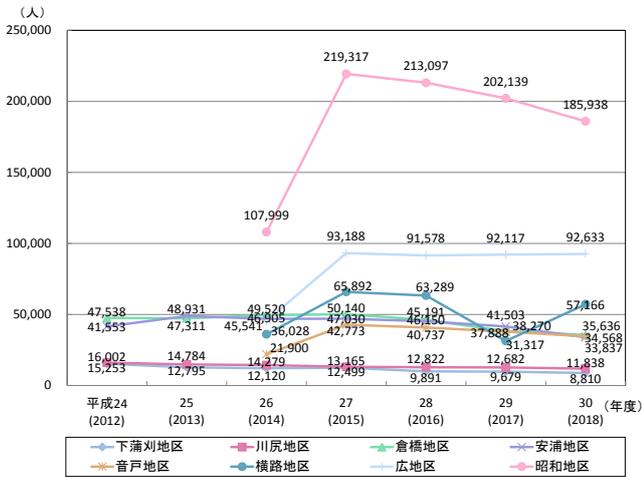
【市内路線バスの年間乗車人員の推移 (広島電鉄株式会社)】



出典：広島電鉄株式会社資料

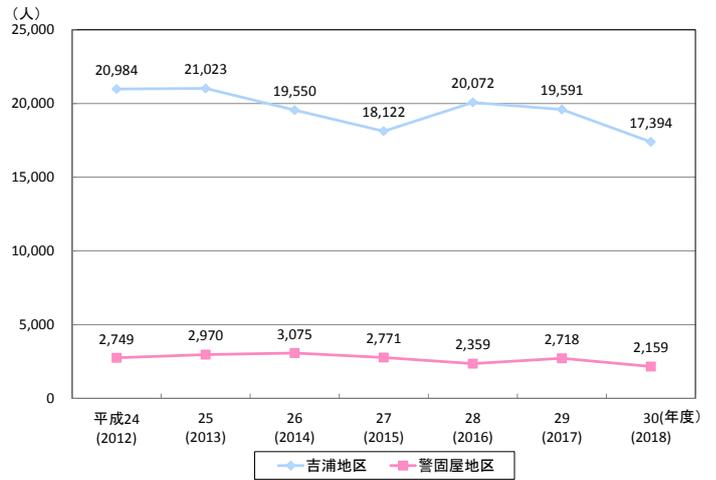
- ・島しょ部地域などで運行する生活バスの年間乗車人員は、地域差はあるものの全体的に微減傾向にあります。
- ・吉浦地域と警固屋地域で運行されている乗合タクシーの年間の乗車人員は、吉浦地区では減少傾向、警固屋地区ではほぼ横ばいで推移しています。

**【生活バスの年間乗車人員の推移】**



出典：呉市資料（平成 30 年度）

**【乗合タクシーの年間乗車人員の推移】**

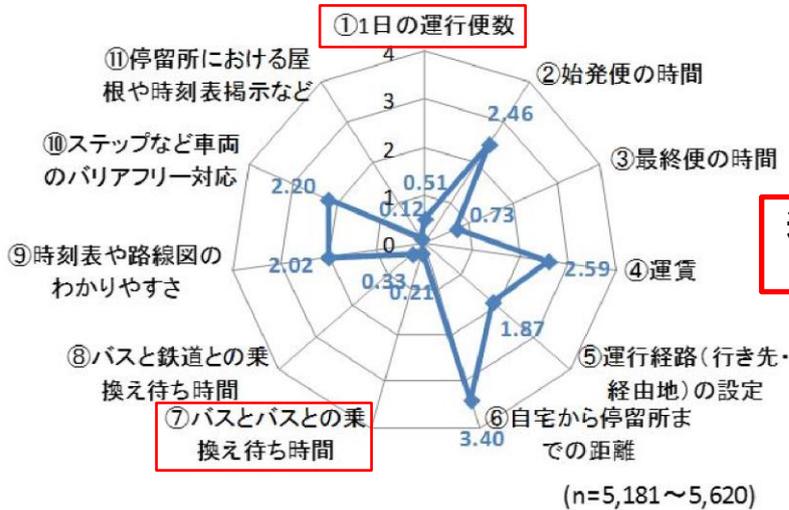


出典：呉市資料（平成 30 年度）

- ・音戸，横路，広及び昭和地区の循環線については、平成 26 年 10 月に広島電鉄株式会社が路線退出し、呉市生活バスとして運行されています。

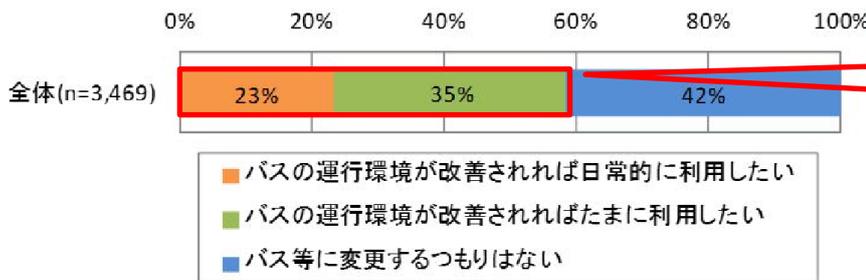
- ・現在バスを利用していない人についても一定程度の利用の意向はあるため、運行環境の改善により利用が増加する見込みがあります。

**【バス等に対する満足度】**



**運行便数, 待ち時間について満足度が低い**

**【バスを利用していない人の利用意向】**



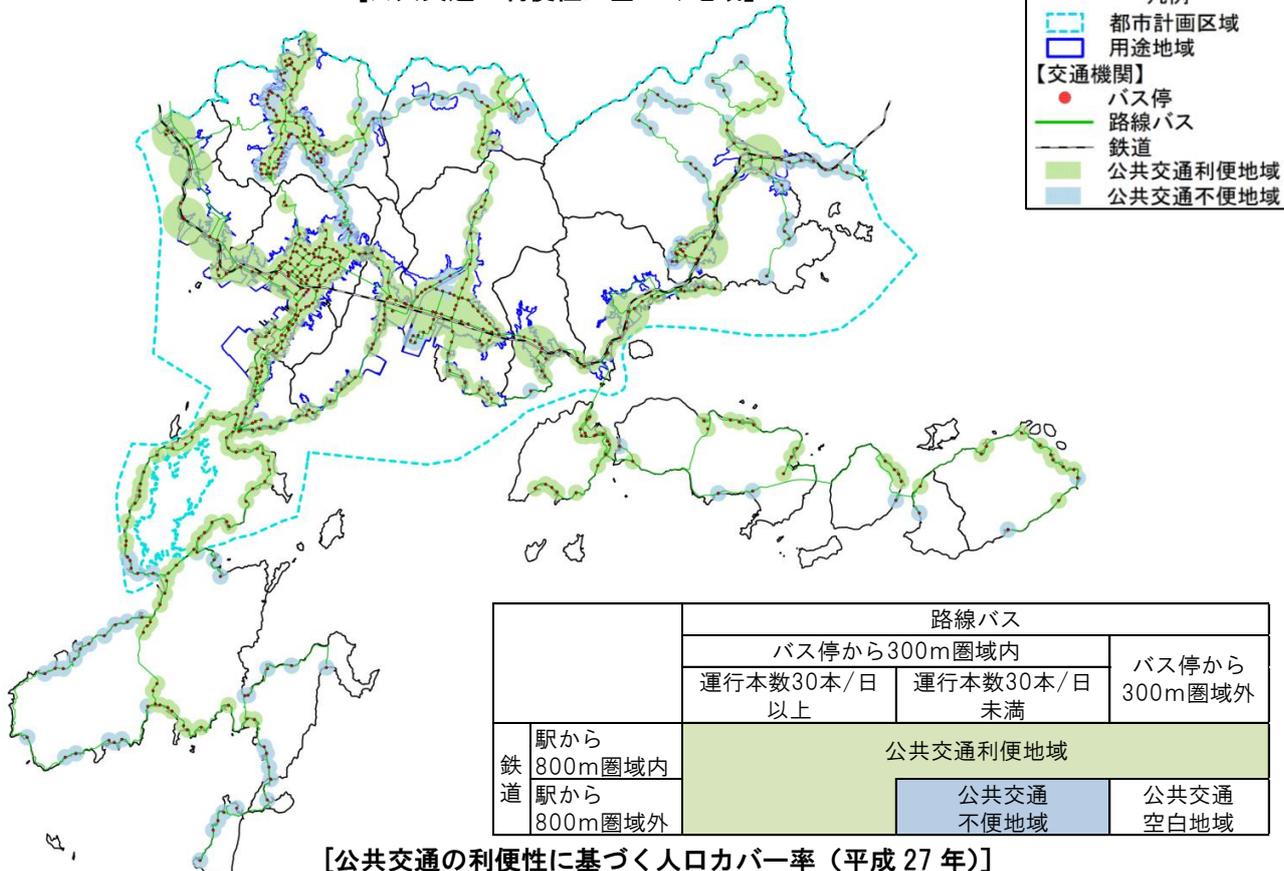
**運行環境改善による利用者増加の見込みあり**

出典：呉市「呉市地域公共交通ビジョン（平成 26 年度）」

■公共交通カバー率 - 公共交通の利便性が低い地域があります。

- ・公共交通サービスは、市街化区域等の居住地をおおむねカバーできていますが、公共交通利便性でみると昭和地域や郷原地域では、他の市街化区域と比較して公共交通不便地域が多くなっています。
- ・川尻安浦都市計画区域や音戸都市計画区域などでは公共交通空白地域が多く存在しています。
- ・総人口の約71%に当たる市民が、公共交通の利便性の高い地域に居住しています。

【公共交通の利便性に基づく地域】



【公共交通の利便性に基づく人口カバー率（平成27年）】

区域	エリア	エリア人口 ①	公共交通利便地域		公共交通不便地域		公共交通空白地域	
			カバー人口 ②	人口カバー率 ②/①×100	カバー人口 ③	人口カバー率 ③/①×100	カバー人口 ①-(②+③)	人口カバー率 [(①-(②+③))/①]×100
広島圏都市計画区域	中央	48,945	40,912	83.6%	3,863	7.9%	4,170	8.5%
	宮原	10,421	7,931	76.1%	666	6.4%	1,824	17.5%
	警固屋	3,697	3,422	92.6%	102	2.8%	173	4.7%
	吉浦	8,310	7,008	84.3%	0	0.0%	1,302	15.7%
	天応	4,062	2,923	72.0%	1,011	24.9%	128	3.2%
	昭和	32,716	18,446	56.4%	11,565	35.3%	2,705	8.3%
	郷原	4,918	1,925	39.1%	1,743	35.4%	1,250	25.4%
	阿賀	15,053	12,875	85.5%	75	0.5%	2,103	14.0%
	広	46,168	36,022	78.0%	4,766	10.3%	5,380	11.7%
川尻安浦都市計画区域	仁方	5,599	4,166	74.4%	146	2.6%	1,287	23.0%
	川尻	7,493	5,612	74.9%	0	0.0%	1,881	25.1%
	安浦	11,032	5,595	50.7%	2,578	23.4%	2,859	25.9%
音戸都市計画区域	音戸	9,629	5,042	52.4%	516	5.4%	4,071	42.3%
	倉橋	4,335	1,725	39.8%	1,134	26.2%	1,476	34.0%
都市計画区域外	下蒲刈	1,144	567	49.6%	0	0.0%	577	50.4%
	蒲刈	1,486	598	40.2%	246	16.6%	642	43.2%
	豊浜	1,233	467	37.9%	391	31.7%	375	30.4%
	豊	1,675	458	27.3%	214	12.8%	1,003	59.9%
市域全域		217,917	155,694	71.4%	29,016	13.3%	33,207	15.2%

・エリア人口及びカバー人口は、平成27年国勢調査における500mメッシュ人口を用い、メッシュの中心点がエリアに含まれるメッシュの人口を積み上げることで算出しています。そのため、市域全域の人口は、人口等基本集計結果の数値と異なります。

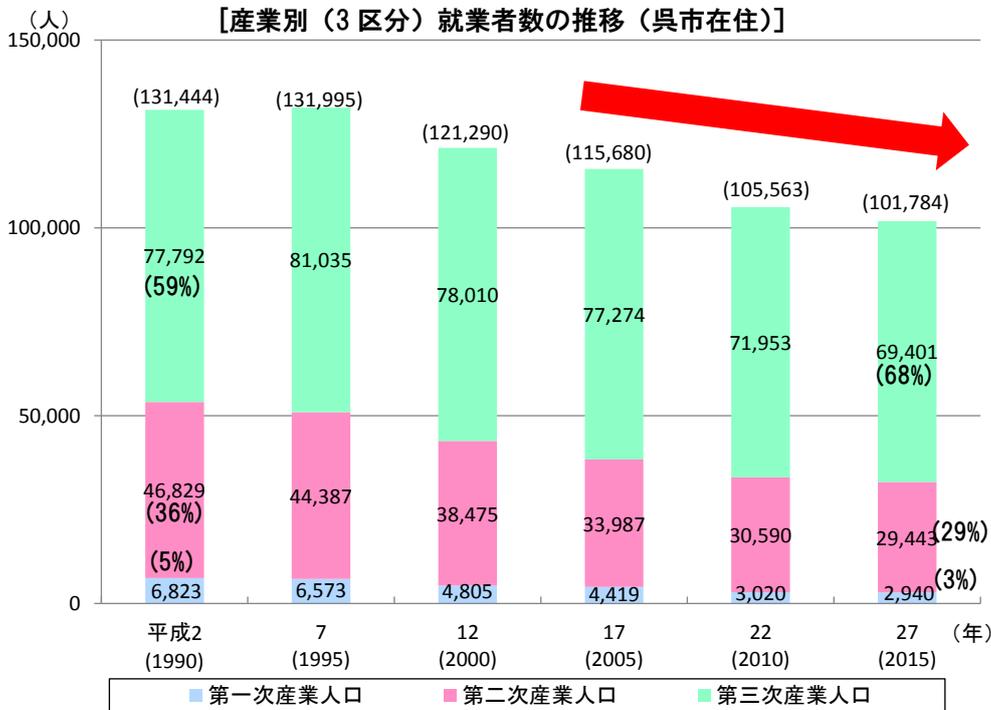
出典：総務省「平成27年国勢調査」、呉市資料（平成29年）を基に作成

おおむね公共交通サービスはカバーできていますが、人口減少下で、公共交通利用者が減少することによって、公共交通サービスの維持が困難になることが懸念されます。高齢者を始めとして、誰もが公共交通を利用して気軽に外出できる環境を整備し、持続的な公共交通を確保する必要があります。

## (4) 経済

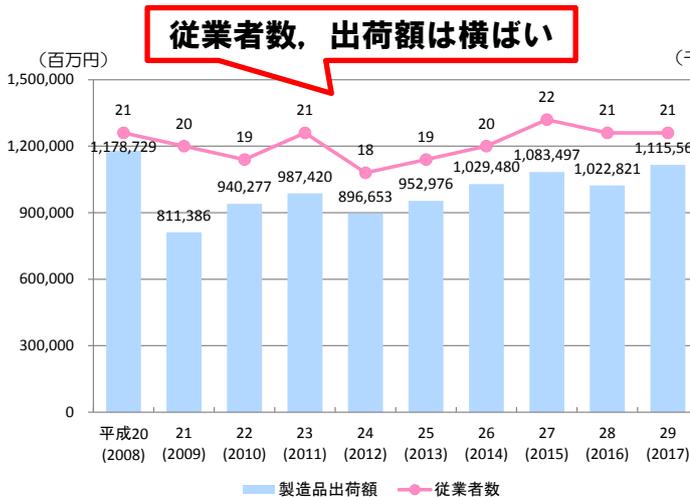
### ■産業動向 - 商業の年間販売額・従業者数が減少しています。

- ・産業別（3区分）就業者数の推移を見ると、平成7年をピークに3区分いずれも就業者数は減少しています。区分ごとの割合は、平成27年では約7割が第三次産業に属しており、第一次産業と第二次産業の割合は減少傾向にあります。
- ・工業の従業者数、製造品出荷額等は、ともに横ばい傾向となっています。
- ・商業の年間商品販売額、従業者数及び事業所数は、ともに微減傾向となっています。



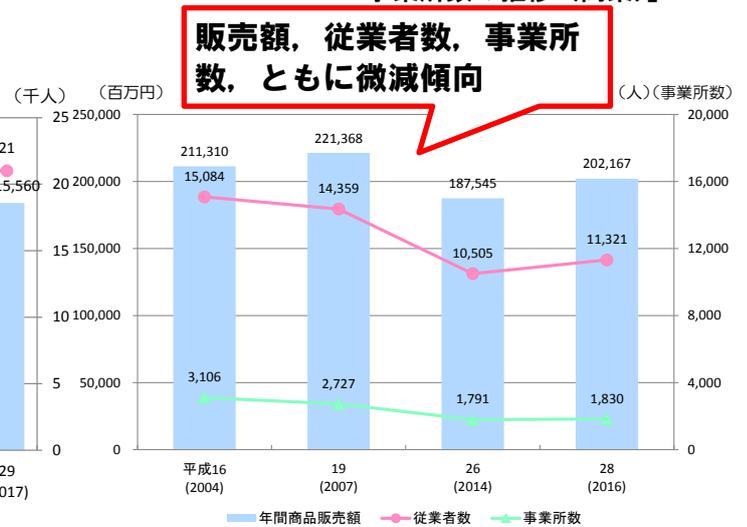
出典：総務省「国勢調査」

【従業者数及び製造品出荷額等の推移（工業）】



出典：経済産業省「工業統計調査」

【小売業の年間商品販売額、従業者数及び事業所数の推移（商業）】



出典：経済産業省「商業統計調査」

■産業構造（雇用の受け皿） - 医療、福祉を除いて、事業所数・従業者数が減少しています。

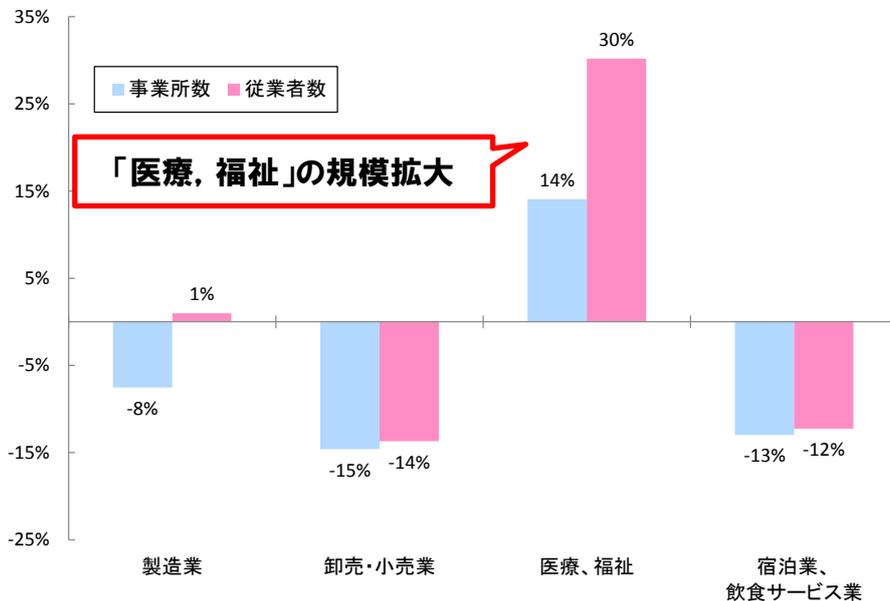
- ・平成 26 年の産業大分類別の従業者数を見ると、「製造業」が最も多く、次いで「医療、福祉」、「卸売・小売業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「サービス業（他に分類されないもの）」となっており、モノづくりのまちのイメージが強い本市ですが、医療、福祉や小売業などのサービス業も雇用の受け皿として地域の雇用を支えています。
- ・上位四つの産業の過去 5 年間（平成 21 年から平成 26 年）の変化を見ると、医療、福祉では、従業者数を増加させる一方で、製造業は横ばい、卸売・小売業、宿泊業、飲食サービス業では大きく事業所数・従業者数が減少しています。

【産業大分類別の従業者数（平成 26 年）】



出典：経済産業省「経済センサス（平成 26 年）」

【過去 5 年間の民営事業所数・従業者数の変化（平成 21 年-平成 26 年）】



出典：経済産業省「経済センサス（平成 21 年，平成 26 年）」

飲食店や小売店等の減少は、地域の生活サービス機能の低下や雇用の減少などの都市活力の低下につながる事が懸念されるため、飲食店や小売店等の減少に歯止めを掛けるための取組を行う必要があります。

■雇用の状況 - 大学を除いて、専門学校・専門学科高校の卒業生の市内への就職率が高い傾向です。

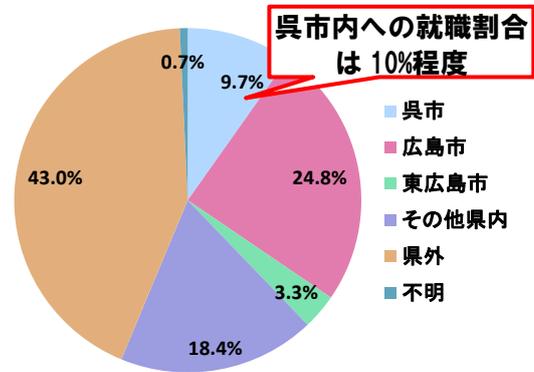
- ・市内には大学，専門学校，専門学科高校があり，その中でも工業系学科や医療看護系学科が多い状況です。
- ・市内の大学等からの市内への就職は，10%程度です。
- ・市内の専門学校からの市内への就職は，63%程度です。
- ・市内の専門学科高校からの市内への就職は，60%程度です。

〔呉市内の主要な大学・高専の概要（平成30年度）〕

種別	学部・学科	学生数	修了・卒業生数	就職者数
呉市内に立地する大学・高専	社会情報学部 人間健康学部 看護学部 薬学部 医療栄養学部 工学部 等	3,350名	723名	544名 (呉市内に就職) 53名

出典：呉市資料

〔呉市内にある大学・高専就職先（平成30年度）〕

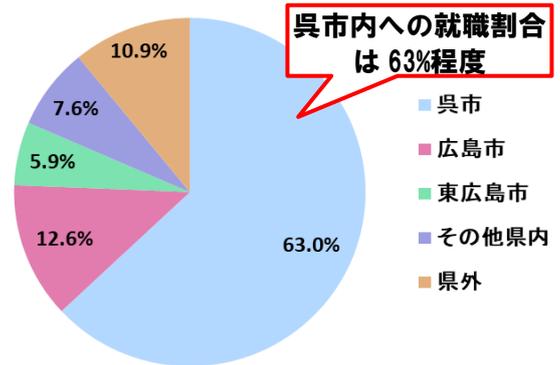


〔呉市内の主要な専門学校の概要（平成30年度）〕

種別	学科	学生数	修了・卒業生数	就職者数
呉市内に立地する専門学校	看護学科 准看護科 等	448名	128名	119名 (呉市内に就職) 75名

出典：呉市資料

〔呉市内にある専門学校就職先（平成30年度）〕

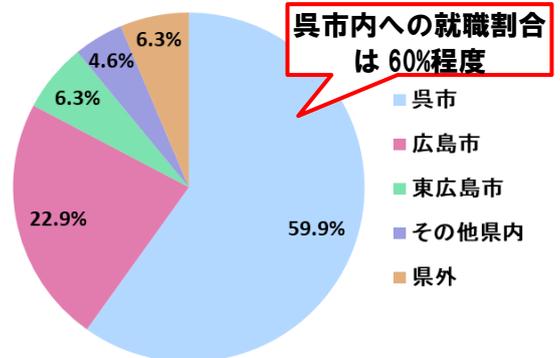


〔呉市内の主要な専門学科高校の概要（平成30年度）〕

種別	学科	学生数	修了・卒業生数	就職者数
呉市内に立地する専門学科高校	普通工業 機械電気 電子機械 材料工 機械材料工 商業 会計 情報処理 等	1,590名	503名	284名 (呉市内に就職) 170名

出典：呉市資料

〔呉市内にある専門学科高校就職先（平成30年度）〕



専門学校や専門学科高校の就職先は市内が多いものの，大学卒業生の就職先は市外が多い状況です。大学の学科と雇用の受け皿である産業はおおむね一致しているものの，市外へ卒業生が流出しています。大学生等の若年層の流出は，都市活力を低下させることが懸念されるため，関係機関との連携により大学生や高校生等に市内へ定住してもらえる取組を行う必要があります。

## (5) 財政

### ■公共施設等の改修・更新費用 - 公共施設等の改修・更新費用は増加する見込みです。

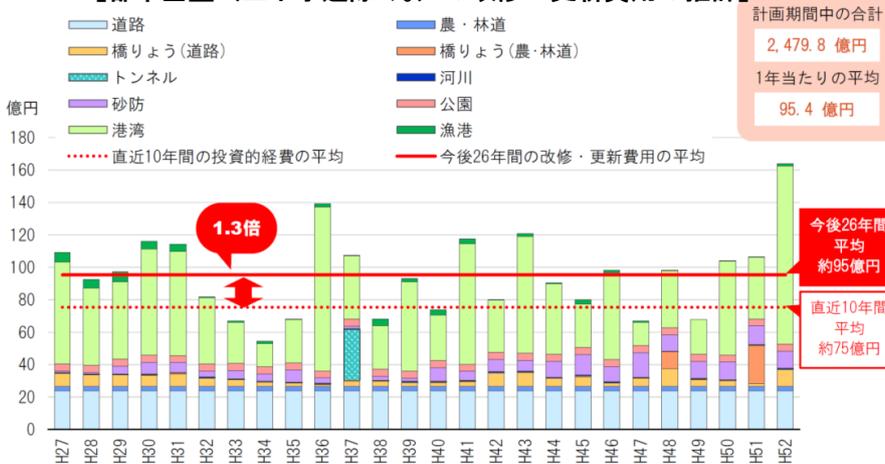
- 平成 27 年度から令和 22 年度までの 26 年間における市の所有する公共施設等の改修・更新費用の年平均試算額は、公共施設で年平均約 112 億円となり、直近 10 年間実績の約 2.5 倍、上下水道を除く都市基盤で年平均約 95 億円となり、直近 10 年間実績の約 1.3 倍、上下水道等で年平均約 66 億円となり、直近 10 年間実績の約 2.3 倍になると想定されています。これらの合計で、年平均約 273 億となり、直近 10 年間実績の約 1.8 倍となります。

【公共施設の改修・更新費用の推計】

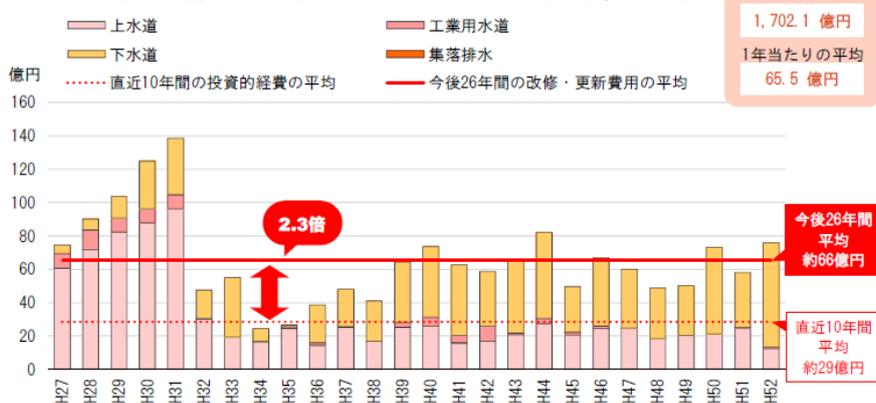


- (1) (一財) 地域総合整備財団の「公共施設等更新費用試算ソフト」により、50年で建替と仮定した試算です。  
 (2) 築後25年で大規模改修を実施すると仮定し試算しています。既に25年を経過している施設の改修は、10年間で均等に行くと仮定した試算です。

【都市基盤（上下水道除く。）の改修・更新費用の推計】



【都市基盤（上下水道等）の改修・更新費用の推計】

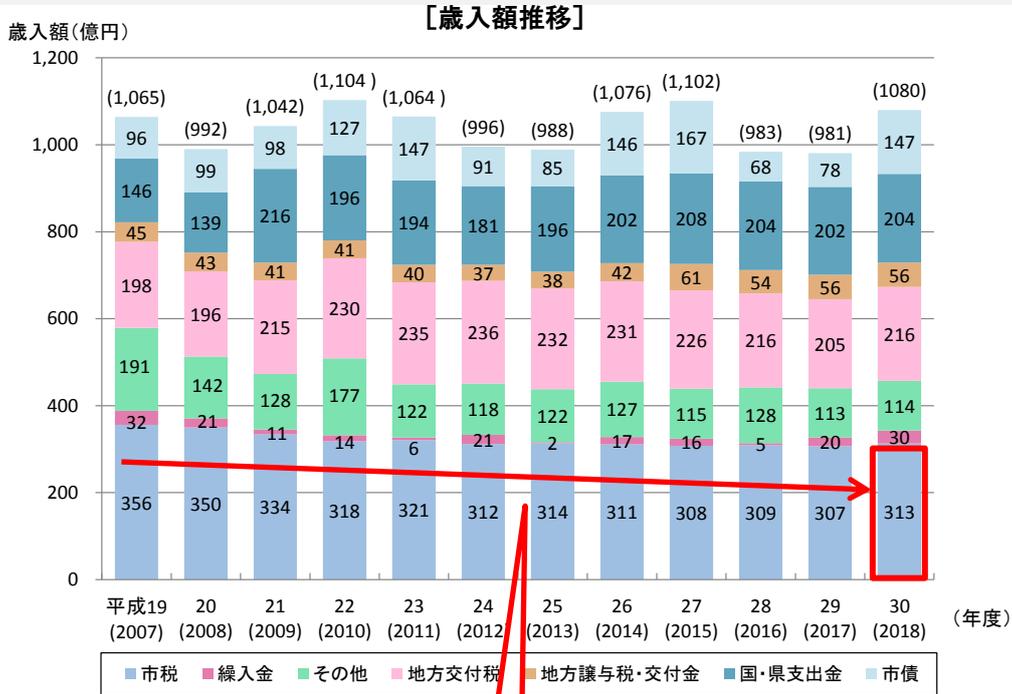


出典：呉市「呉市公共施設等総合管理計画（平成 27 年度）」

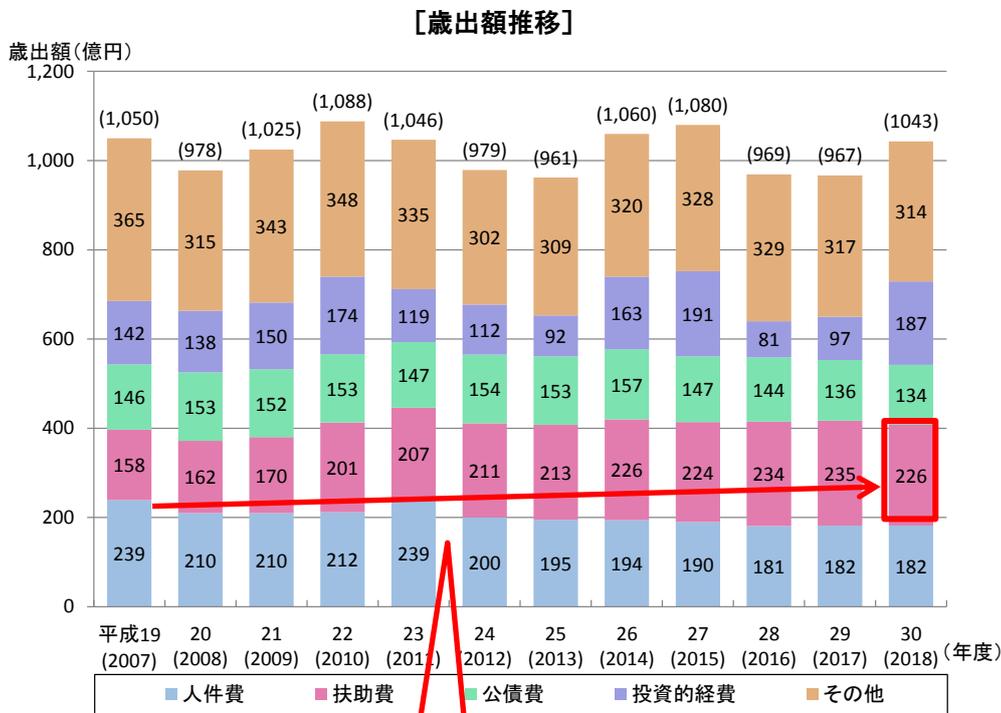
老朽化対策に必要な公共施設等が増加し、施設の改修・更新費用が増加する見込みであるため、施設再編などにより、施設の改修・更新費用の増加を抑制する必要があります。

■歳入・歳出 - 市税は減少し、扶助費は増加しています。

- ・歳入額は1,000億円前後で推移しており、市税と地方交付税で約50%を占めています。
- ・自主財源である市税は減少傾向で、平成19年度から平成30年度の間で43億円減少し、313億円（1割減）となっています。
- ・歳出額では、扶助費が増加傾向にあり、平成19年度から平成30年度で68億円増加し226億円となり、約1.4倍に増加しています。



**自主財源である市税は減少傾向**



**扶助費が増加傾向**

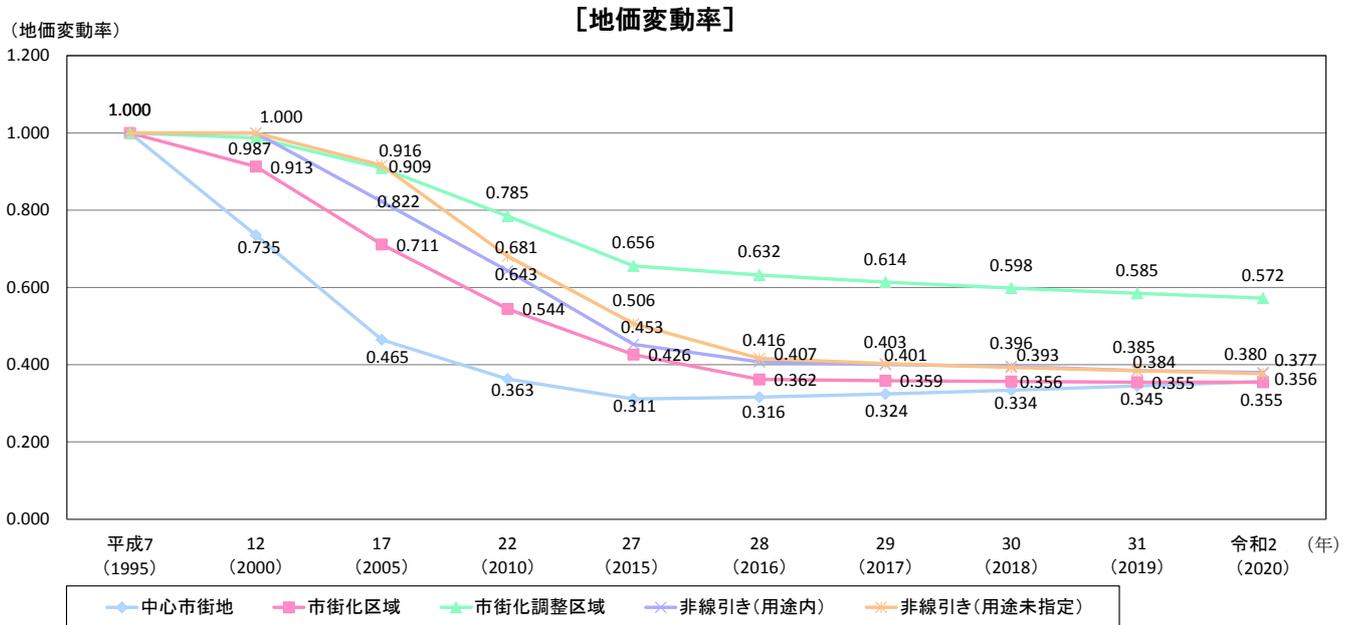
出典：呉市資料（平成30年度）

人口減少等に伴う市税の減少や高齢化の進展等による扶助費の増加が見込まれることから、行政サービスの効率化を図る等、持続可能性を高める必要があります。

## (6) 地価

### ■地価の動向 - 下落傾向にありましたが、近年は横ばいにあります。

- ・平成7年から平成28年までの呉市の公示地価の変動率は、長期的に下落していますが、近年は下げ止まり傾向が見られます。特に平成7年から平成17年までの中心市街地の下落率は顕著ですが、近年、一部の地区において微増となっている箇所もあります。



出典：国土交通省「地価公示・都道府県地価調査」

- ・地価変動率  
平成7年を基準（1.0）としたときの、各地域の地価の割合

中心市街地の地価の下落は、固定資産税に影響し、市の税収が減少することにより、行政サービスの低下につながる懸念があります。そのため、居住や都市機能の集約化等により都市活力を向上し、地価の下落を抑制する必要があります。

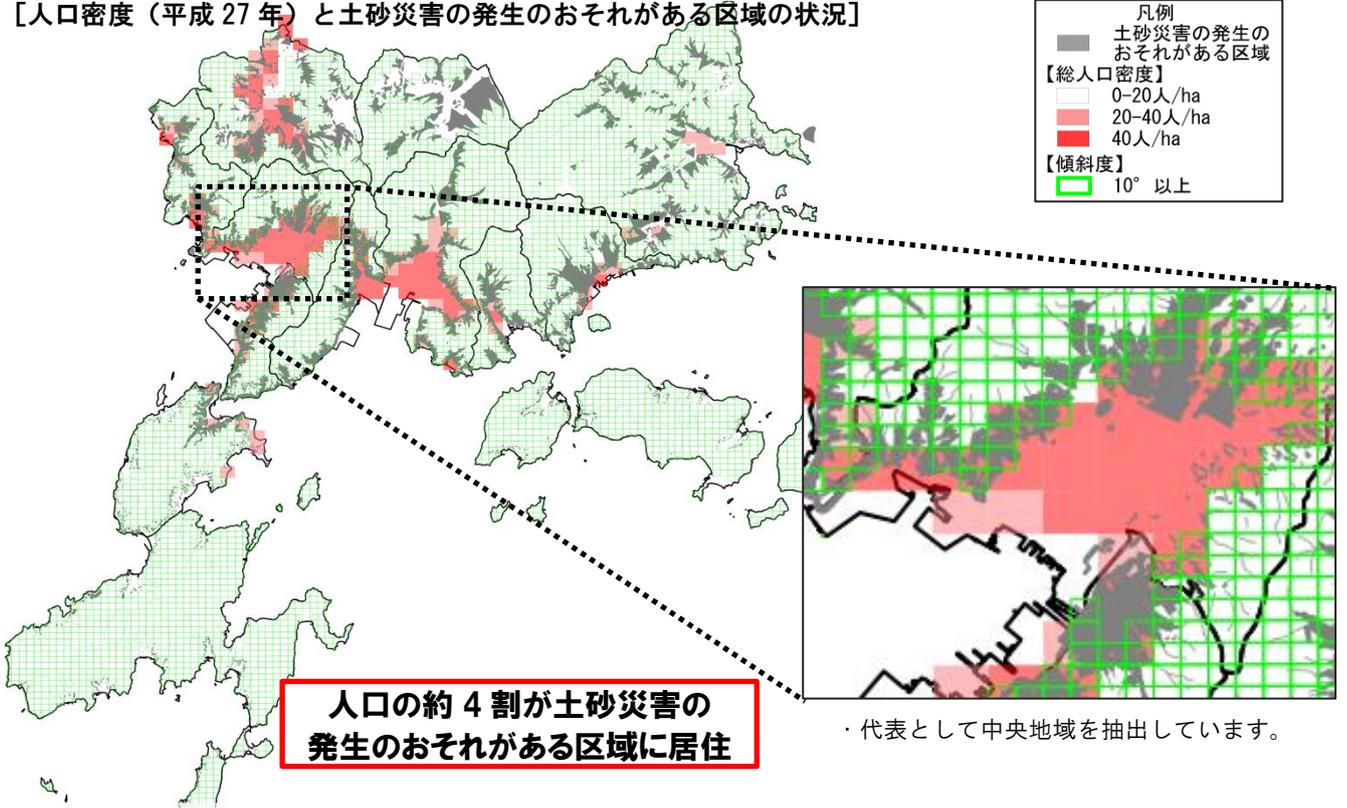
## (7) 災害

### ■人口密度と災害の発生のおそれがある区域との関係

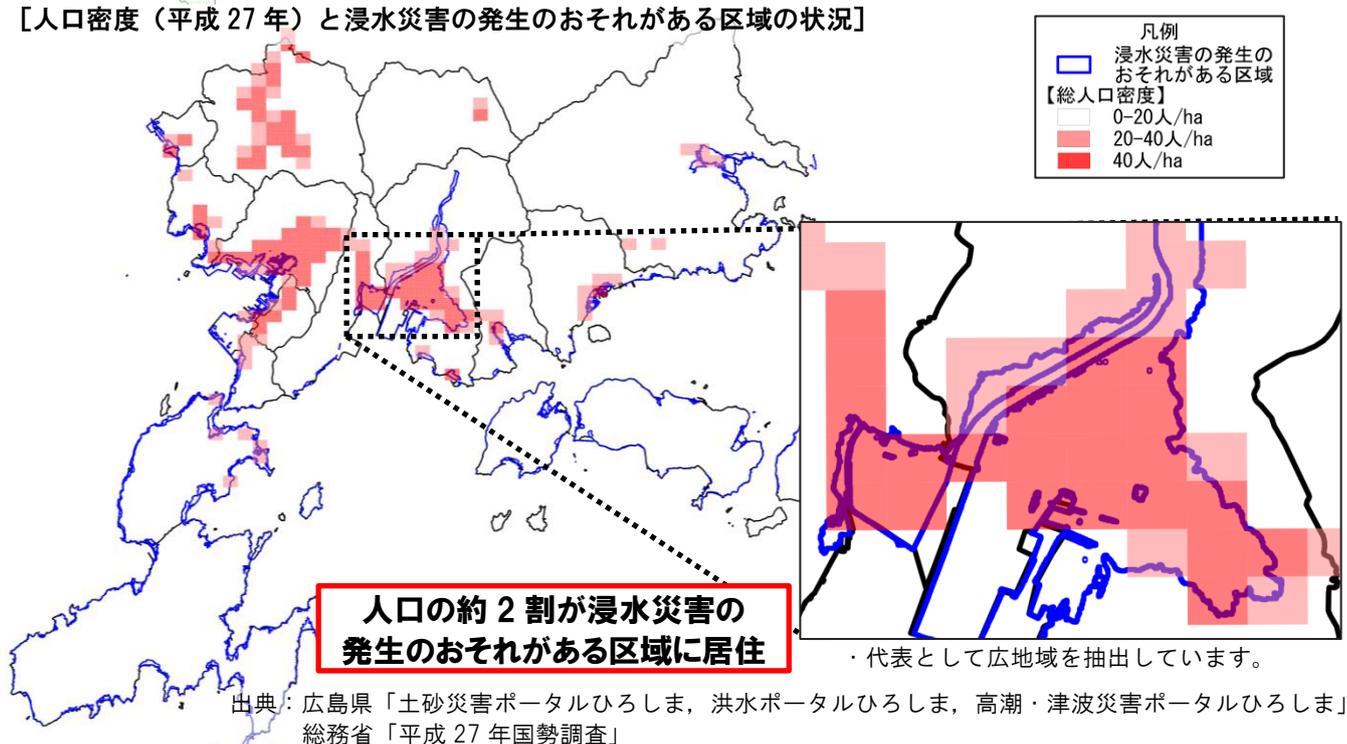
- 人口密度の高い地域と災害の発生のおそれがある区域との重複が見られます。

- ・人口密度の高い中心市街地や斜面市街地に、土砂災害警戒区域等が指定され、沿岸部では津波災害警戒区域と高潮による浸水想定区域、河川沿いにおいては洪水による浸水想定区域が分布しています。
- ・人口の約4割が土砂災害の発生のおそれがある区域に、約2割が浸水災害の発生のおそれがある区域に居住しています。

【人口密度（平成27年）と土砂災害の発生のおそれがある区域の状況】



【人口密度（平成27年）と浸水災害の発生のおそれがある区域の状況】



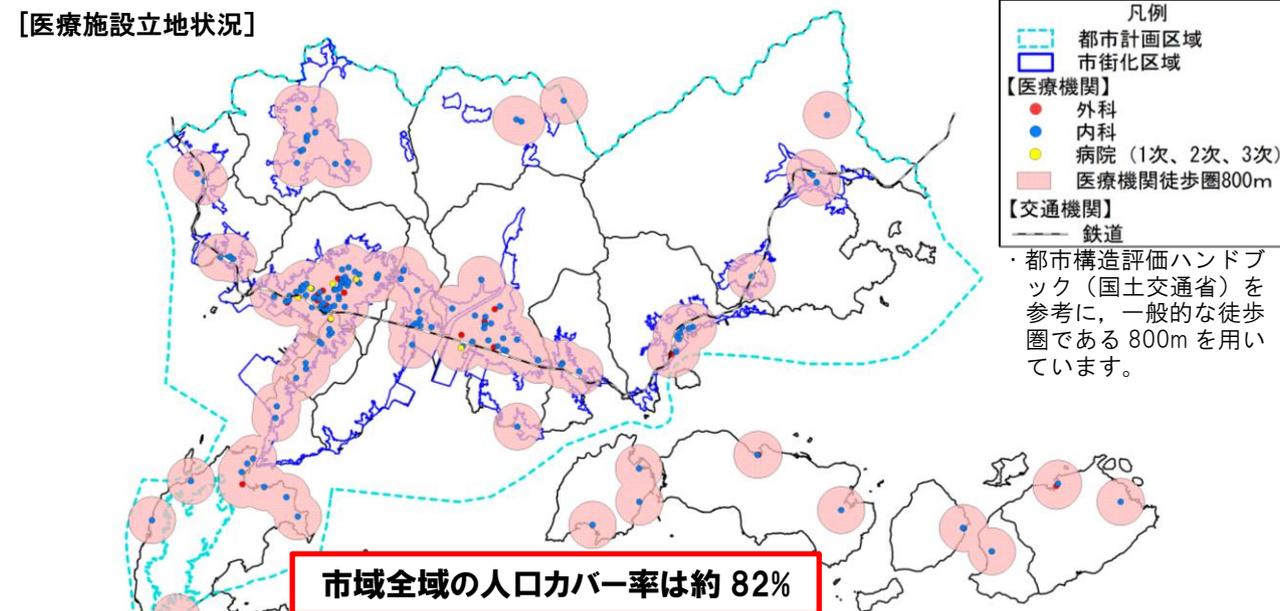
市内の各地域に災害の発生のおそれがある区域が分布していることから、防災対策と併せて、居住誘導等により安全な市街地の形成に取り組む必要があります。

## (8) 都市機能

### ■医療施設 - 病院施設数や人口カバー率は高い状況です。

- ・ 徒歩圏（半径 800m）の人口カバー率は、市域全域でおおむね 8 割程度で、地方都市（おおむね 30 万人）の平均値を上回っています。
- ・ 市内のほぼ全域に分布しており、特に中央地域では充実していますが、その他の地域の徒歩圏内では不足している地域があります。
- ・ 人口当たりの医療機関数は、全国・県平均を上回り、医療環境は量的に充実しています。

#### [医療施設立地状況]



**市域全域の人口カバー率は約 82%**

#### ・ 医療機関の区分

- 1 次：軽度な症状の患者に対応する医療機関（開業医、診療所等）
- 2 次：高度な医療機器を備えた地域の中核的な病院
- 3 次：2 次医療機関で対応が困難な高度医療を担う特定機能病院

出典：総務省「平成 27 年国勢調査」、救急医療 NETHIROSHIMA（平成 29 年）

#### ▼地域別の医療施設の人口カバー率（平成 27 年総人口）

区域	エリア	エリア人口 ①	カバー人口 ②	人口カバー率 ②/①×100	施設数
広島圏都市計画区域	中央	48,945	46,582	95.2%	64
	宮原	10,421	10,421	100.0%	9
	警固屋	3,697	3,193	86.4%	2
	吉浦	8,310	5,016	60.4%	5
	天応	4,062	3,703	91.2%	2
	昭和	32,716	24,888	76.1%	12
	郷原	4,918	2,069	42.1%	3
	阿賀	15,053	14,105	93.7%	11
	広	46,168	41,297	89.4%	23
	仁方	5,599	4,748	84.8%	3
川尻安浦都市計画区域	川尻	7,493	5,695	76.0%	8
	安浦	11,032	5,566	50.5%	5
音戸都市計画区域	音戸	9,629	5,826	60.5%	11
	倉橋	4,335	1,151	26.6%	3
	下蒲刈	1,144	836	73.1%	3
	蒲刈	1,486	626	42.1%	2
	豊浜	1,233	932	75.6%	3
都市計画区域外	豊	1,675	1,315	78.5%	2
	市域全域	217,917	177,969	81.7%	171

- ・ カバー人口とは、各施設から半径 800m 以内に居住する総人口
- ・ エリア人口及びカバー人口は、平成 27 年国勢調査における 500m メッシュ人口を用い、メッシュの中心点がエリアに含まれるメッシュの人口を積み上げることで算出しています。そのため、市域全域の人口は、人口等基本集計結果の数値と異なります。

**人口当たりの病院施設数は、全国、県平均を上回る**

#### [病院施設数]

区分	病院施設数 (実数)	病院施設数 (人口10万対)
呉市	26	11.5
広島県	240	8.5
全国	8,372	6.6

出典：厚生労働省「医療施設調査（平成 30 年）」を基に作成

- ・ 病院：病床数 20 床以上の入院施設（病棟）を持つものを指す

#### [徒歩圏人口カバー率の他都市等との比較]

(単位：%)

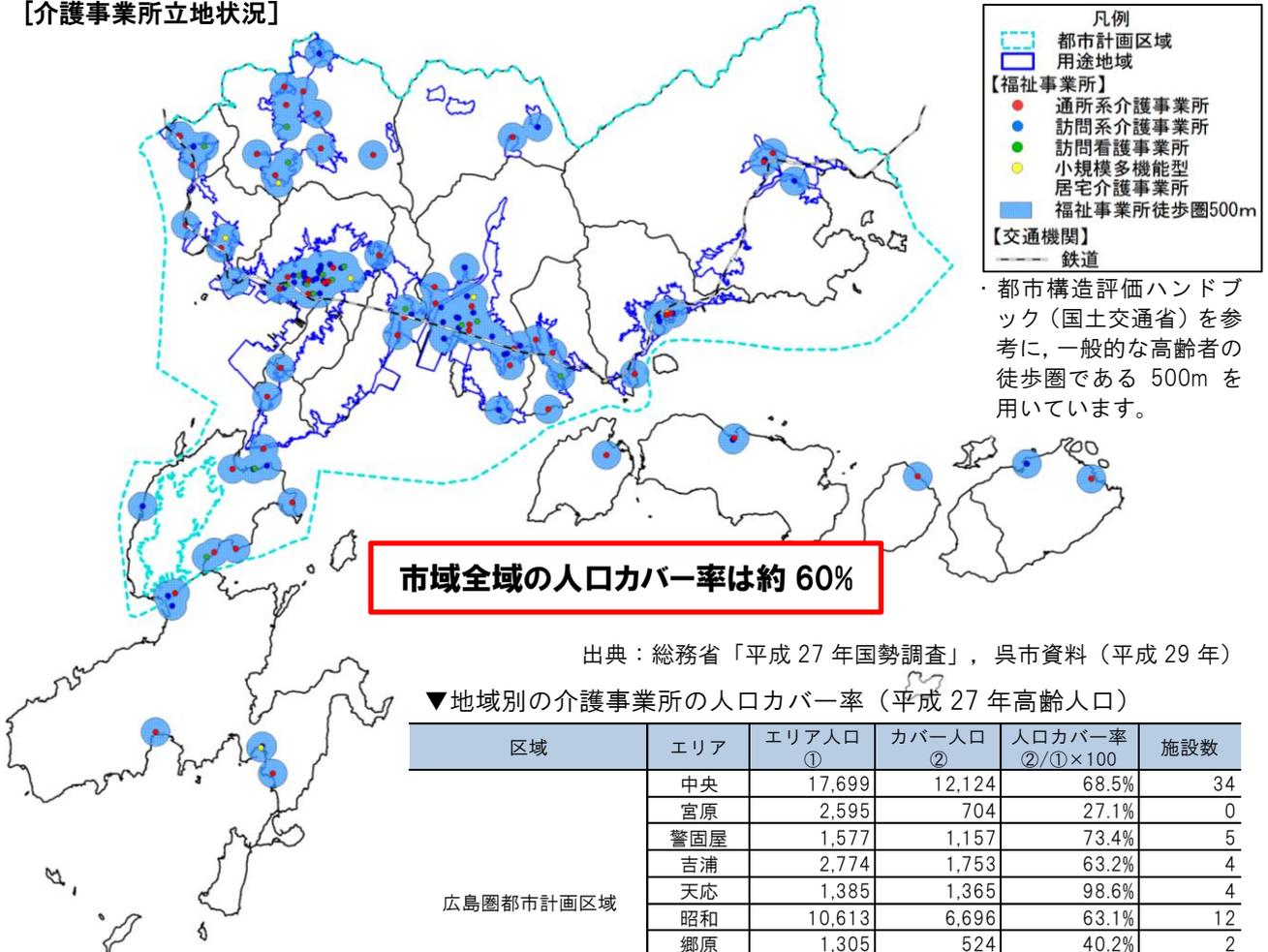
評価指標	呉市	都市規模別平均値			
		全国	地方都市		
			政令都市	おおむね30万	おおむね10万
医療施設	82	85	91	76	-

**地方都市の平均値を上回る**

■介護事業所 -人口カバー率は低い状況で、徒歩圏内で施設が不足している地域があります。

- ・徒歩圏（半径 500m）の高齢人口カバー率は、市域全域でおおむね 6 割程度であり、地域間での差が生じています。また、地方都市（おおむね 30 万人）の平均値を下回っています。
- ・徒歩圏内では、中央・広地域では比較的充実している傾向にありますが、その他の地域では不足している地域があります。

【介護事業所立地状況】



**市域全域の人口カバー率は約 60%**

出典：総務省「平成 27 年国勢調査」，呉市資料（平成 29 年）

▼地域別の介護事業所の人口カバー率（平成 27 年高齢人口）

区域	エリア	エリア人口 ①	カバー人口 ②	人口カバー率 ②/①×100	施設数
広島圏都市計画区域	中央	17,699	12,124	68.5%	34
	宮原	2,595	704	27.1%	0
	警固屋	1,577	1,157	73.4%	5
	吉浦	2,774	1,753	63.2%	4
	天応	1,385	1,365	98.6%	4
	昭和	10,613	6,696	63.1%	12
	郷原	1,305	524	40.2%	2
	阿賀	5,083	2,553	50.2%	4
	広	11,033	8,189	74.2%	25
川尻安浦都市計画区域	仁方	2,025	1,565	77.3%	4
	川尻	2,665	1,751	65.7%	7
音戸都市計画区域	安浦	3,848	950	24.7%	4
	音戸	3,741	1,641	43.9%	10
都市計画区域外	倉橋	2,055	675	32.8%	5
	下蒲刈	488	159	32.6%	1
	蒲刈	847	112	13.2%	2
	豊浜	819	71	8.7%	1
	豊	1,119	631	56.4%	2
市域全域		71,671	42,620	59.5%	126

・施設の量や配置等については、呉市高齢者福祉計画・介護保険事業計画等で検討していきます。

- ・カバー人口とは、各施設から半径 500m 以内に居住する高齢人口
- ・エリア人口及びカバー人口は、平成 27 年国勢調査における 500m メッシュ人口を用い、メッシュの中心点がエリアに含まれるメッシュの人口を積み上げることで算出しています。そのため、市域全域の人口は、人口等基本集計結果の数値と異なります。

【徒歩圏人口カバー率の他都市等との比較】

（単位：％）

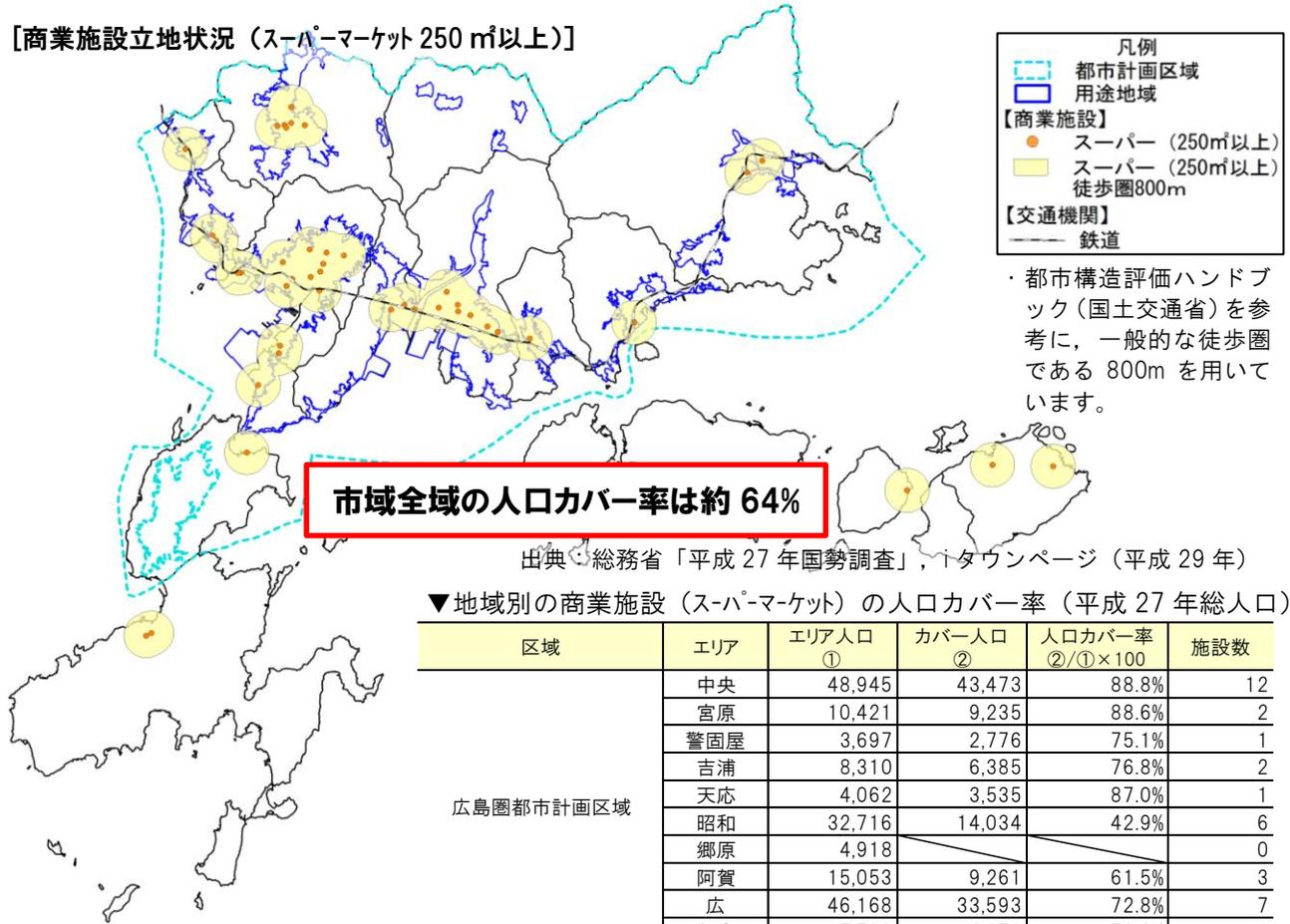
評価指標	呉市	都市規模別平均値			
		全国	地方都市		
			政令都市	おおむね30万	おおむね10万
介護事業所	60	79	90	73	-

**地方都市の平均値を下回る**

■商業施設 - 徒歩圏内で施設が不足している地域があります。

- ・ 徒歩圏（半径 800m）の人口カバー率は、市内全域でおおむね 6 割程度で地方都市（おおむね 30 万人）の平均値と同等程度となっており、中央・広地域などでは 8 割程度となっています。
- ・ 中央・広地域では比較的充実していますが、昭和地域等徒歩圏内に施設が不足している地域も広く分布しています。
- ・ 市民のニーズによれば、買物環境の充実が特に望まれています。

[商業施設立地状況（スーパーマーケット 250㎡以上）]



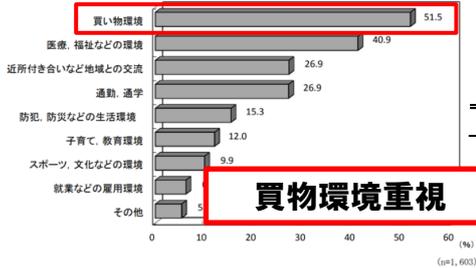
出典：総務省「平成 27 年国勢調査」, iタウンページ（平成 29 年）

▼地域別の商業施設（スーパーマーケット）の人口カバー率（平成 27 年総人口）

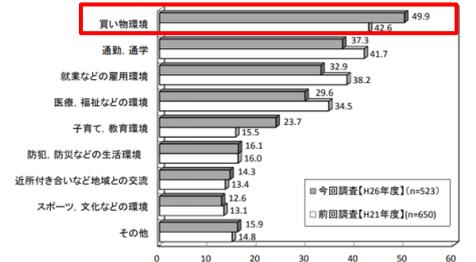
区域	エリア	エリア人口 ①	カバー人口 ②	人口カバー率 ②/①×100	施設数
広島圏都市計画区域	中央	48,945	43,473	88.8%	12
	宮原	10,421	9,235	88.6%	2
	警固屋	3,697	2,776	75.1%	1
	吉浦	8,310	6,385	76.8%	2
	天応	4,062	3,535	87.0%	1
	昭和	32,716	14,034	42.9%	6
	郷原	4,918			0
	阿賀	15,053	9,261	61.5%	3
	広	46,168	33,593	72.8%	7
川尻安浦都市計画区域	仁方	5,599	4,376	78.2%	1
	川尻	7,493	3,709	49.5%	1
音戸都市計画区域	安浦	11,032	3,790	34.4%	2
	音戸	9,629	1,665	17.3%	1
都市計画区域外	倉橋	4,335	620	14.3%	2
	下蒲刈	1,144			0
	蒲刈	1,486			0
	豊浜	1,233	716	58.1%	1
	豊	1,675	1,338	79.9%	2
市域全域		217,917	138,506	63.6%	44

- ・ カバー人口とは、各施設から半径 800m以内に居住する総人口
- ・ エリア人口及びカバー人口は、平成 27 年国勢調査における 500mメッシュ人口を用い、メッシュの中心点がエリアに含まれるメッシュの人口を積み上げることで算出しています。そのため、市域全域の人口は、人口等基本集計結果の数値と異なります。

[住みよいと感じる要因]



[住みにくいと感じる要因]



出典：呉市「呉市民意識調査報告書」（平成 26 年度）

[徒歩圏人口カバー率の他都市等との比較]

(単位：%)

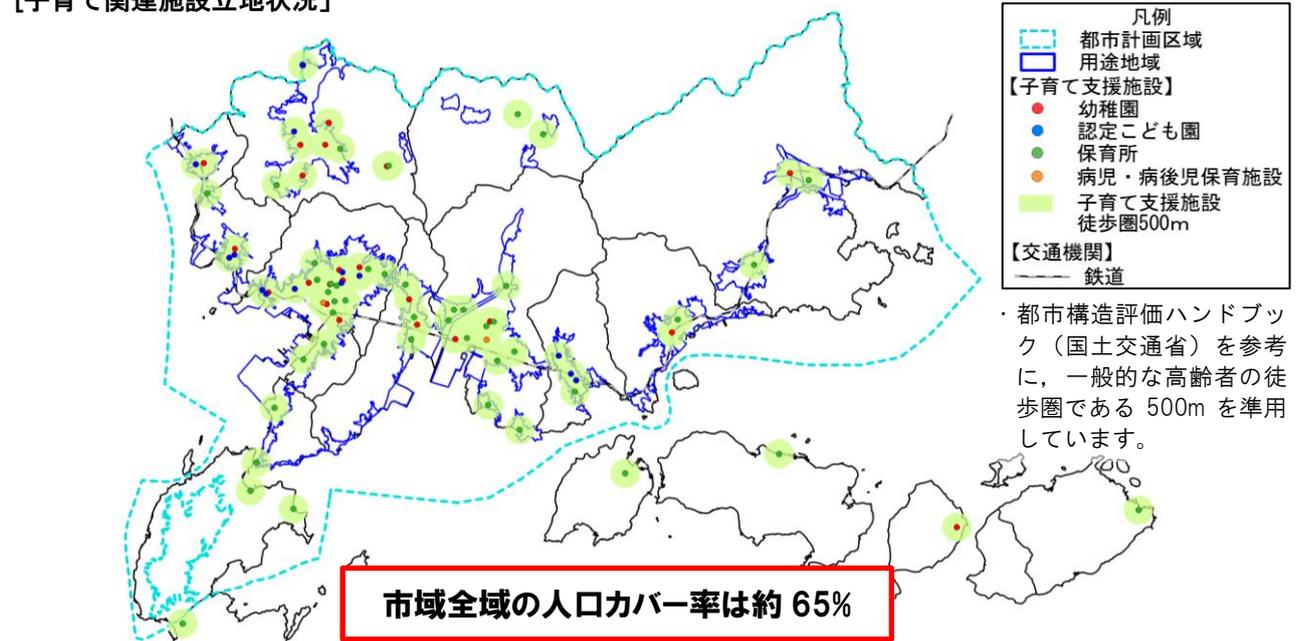
評価指標	呉市	都市規模別平均値			
		全国	地方都市		
			政令都市	おおむね30万	おおむね10万
商業施設	63	75	82	65	-

**地方都市の平均値と同等程度**

■子育て関連施設 - 徒歩圏内で施設が不足している地域があります。

- ・市内のほぼ全域に分布しており、特に中央地域は充実していますが、徒歩圏内（半径 500m）に施設が不足している地域が多くあります。

[子育て関連施設立地状況]



出典：総務省「平成 27 年国勢調査」，呉市資料（平成 29 年）

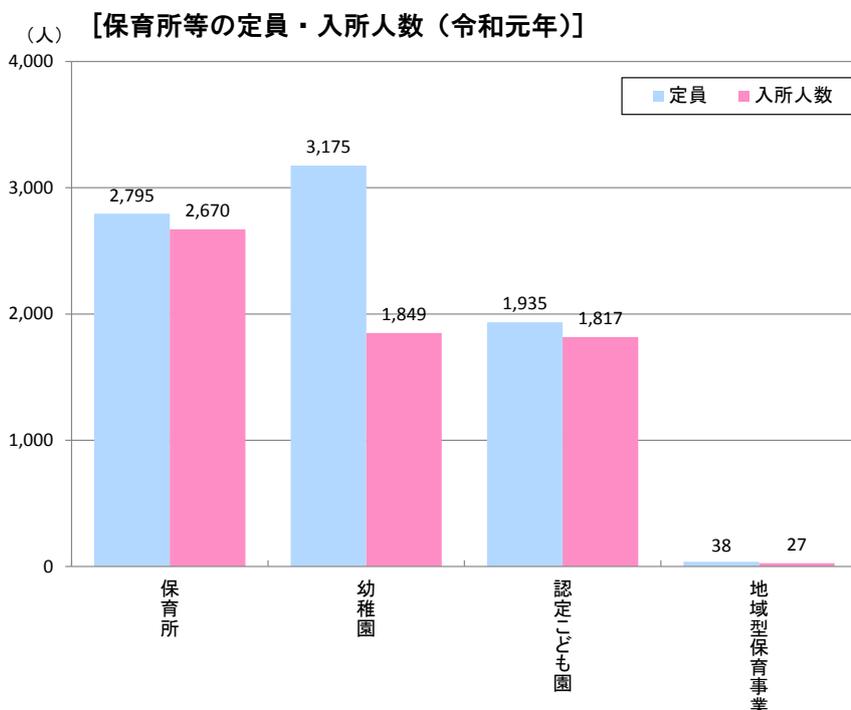
▼地域別の子育て関連の人口カバー率（平成 27 年就学前児童）

区域	エリア	エリア人口 ①	カバー人口 ②	人口カバー率 ②/①×100	施設数
広島圏都市計画区域	中央	2,171	1,855	85.5%	24
	宮原	322	191	59.3%	3
	警固屋	128	74	57.2%	2
	吉浦	409	169	41.4%	4
	天応	212	193	91.2%	2
	昭和	1,984	971	48.9%	12
	郷原	395	197	49.8%	2
	阿賀	745	480	64.5%	5
	広	3,038	2,237	73.6%	16
川尻安浦都市計画区域	仁方	264	243	92.0%	4
	川尻	325	167	51.2%	2
音戸都市計画区域	安浦	455	200	44.0%	3
	音戸	320	140	43.7%	2
都市計画区域外	倉橋	130	23	17.4%	2
	下蒲刈	31	11	34.8%	1
	蒲刈	31	0	0.0%	1
	豊浜	31	10	32.4%	1
	豊	27	6	21.7%	2
市域全域		11,018	7,166	65.0%	88

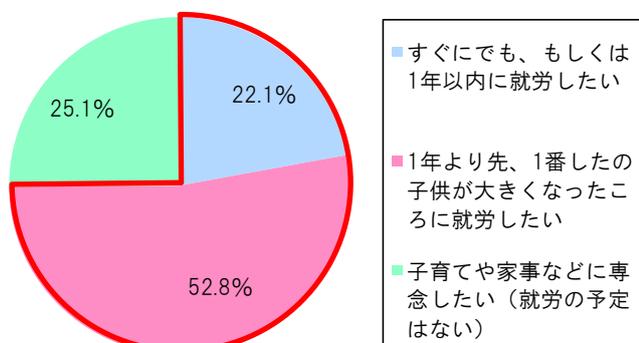
- ・施設の量や配置等については、呉市子ども・子育て支援事業計画等で検討していきます。

- ・カバー人口とは、各施設から半径 500m以内に居住する人口
- ・エリア人口及びカバー人口は、平成 27 年国勢調査における 500mメッシュ人口を用い、メッシュの中心点がエリアに含まれるメッシュの人口を積み上げることで算出しています。そのため、市域全体の人口は、人口等基本集計結果の数値と異なります。

- ・ 保育所等の入所人数については、少子化や保育士・幼稚園教諭等の不足により、定員に達していない施設があります。
- ・ 現在就労していない母親のうち就労を希望する者の割合は、約 75%程度で高い状況です。
- ・ 子育て世代にとっては、小学校就学後の子どもの居場所について、自宅や放課後児童会の利用希望が高くなっています。

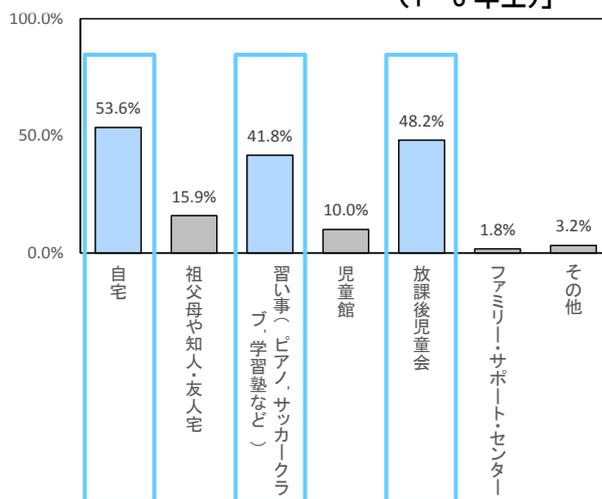


【母親の就労希望（現在就労していない方）】



**母親の就労希望が高い(74.9%)**

【小学校就学後の放課後の過ごし方について（1～3年生）】



**自宅(53.6%)に次いで放課後児童会(48.2%)の利用希望が高い**

出典：呉市「子ども・子育て支援事業計画（令和元年度）」のアンケート調査結果を基に作成

人口減少に伴って各種生活サービス施設（医療施設・介護事業所・商業施設・子育て関連施設等）の利用者が減少し、身近な生活サービス施設が撤退することが懸念されることから、生活サービス施設の維持に向け、施設周辺の人口密度を高める等居住の誘導が必要です。また生活サービス施設が不足する地域では、他の地域にある施設で補完できるように地域間で連携を図る必要があります。

## (9) 都市施設

### ■公共施設 - 老朽化対策の必要な施設が増加する見込みです。

- ・公共施設の施設数と棟数は、減少していますが、延べ床面積は、約 5.7 万㎡の増加となっています。
- ・現在、建築後 30 年以上の公共施設は、延べ床面積全体の約 50%を占めています。
- ・10 年後には、70%を超え、老朽化対策が必要な公共施設が増加します。



### [施設の経過年数]



**老朽化対策が必要な施設数が増加**

出典：呉市「呉市公共施設等総合管理計画（平成 27 年度）」

老朽化対策が必要な公共施設の増加によって、財源の確保が困難となることから、適正な維持管理を行うとともに、公共施設の統合や再配置について検討する必要があります。

## ■都市計画道路の整備状況 - 未整備の都市計画道路の整備を行っています。

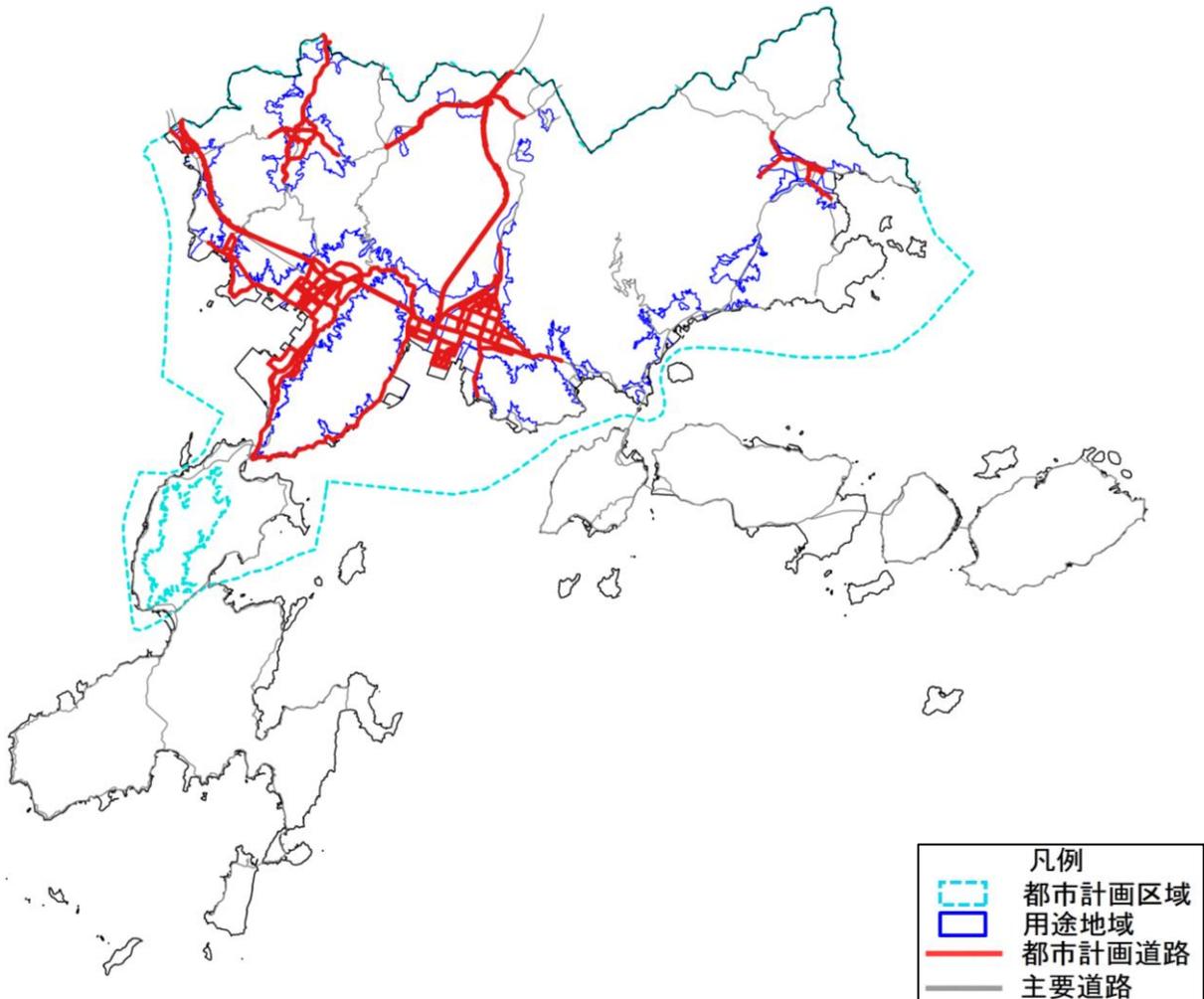
- ・ 呉市では、広島圏都市計画区域及び川尻安浦都市計画区域内で都市計画道路を決定しており、改良済みとなる道路の整備率は、令和元年度末で約51%となっています。
- ・ 現在も広地域における都市計画道路の整備を推進しているところです。

### ▼都市計画道路の整備状況（令和2年3月末現在）

道路種別	改良済延長 <sup>※1</sup> (m)	未整備延長 <sup>※2</sup> (m)	計 (m)
自動車専用道路	0	17,540	17,540
幹線街路	55,680	43,713	99,393
区画街路	6,150	390	6,540
特殊街路	1,700	0	1,700
計	63,530	61,643	125,173
	51%	49%	100%

※1 改良済延長は、道路用地が計画幅員のとおりに確保されており、一般の通行の用に供している道路延長をいいます。

※2 未整備延長には、暫定2車線で供用している道路延長も含まれます。



出典：呉市資料（令和元年度）

■都市基盤（公園・上下水道）の整備状況-公園・下水道ともに整備が進んでいます。

- ・呉市では、広島圏都市計画区域及び川尻安浦都市計画区域で都市計画公園を決定しており、令和元年度末で85か所、約206haあり、整備率は約87%となっています。
- ・都市計画区域内の上下水道の人口普及率は、令和元年度末現在で上水道が約99%、下水道で約92%となっています。

【公園の状況図】

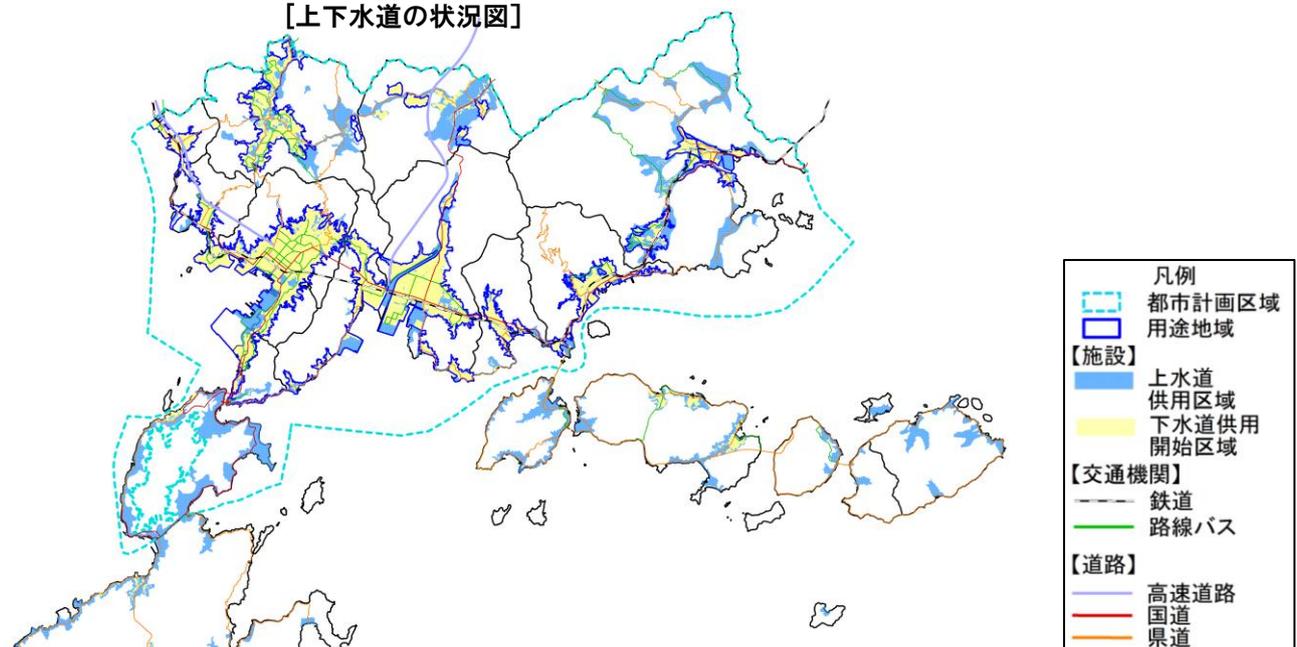


出典：呉市資料（令和元年度）

▼都市計画公園の整備状況（令和2年3月末現在）

	箇所数	計画面積(ha)	供用面積(ha)	整備率(%)
街区公園	66	11.43	11.43	100%
近隣公園	5	9.20	9.10	99%
地区公園	4	23.00	22.7	99%
総合公園	3	43.80	31.7	72%
運動公園	2	23.30	22.8	98%
特殊公園	5	95.60	81.6	85%
合計	85	206.33	179.33	87%

【上下水道の状況図】



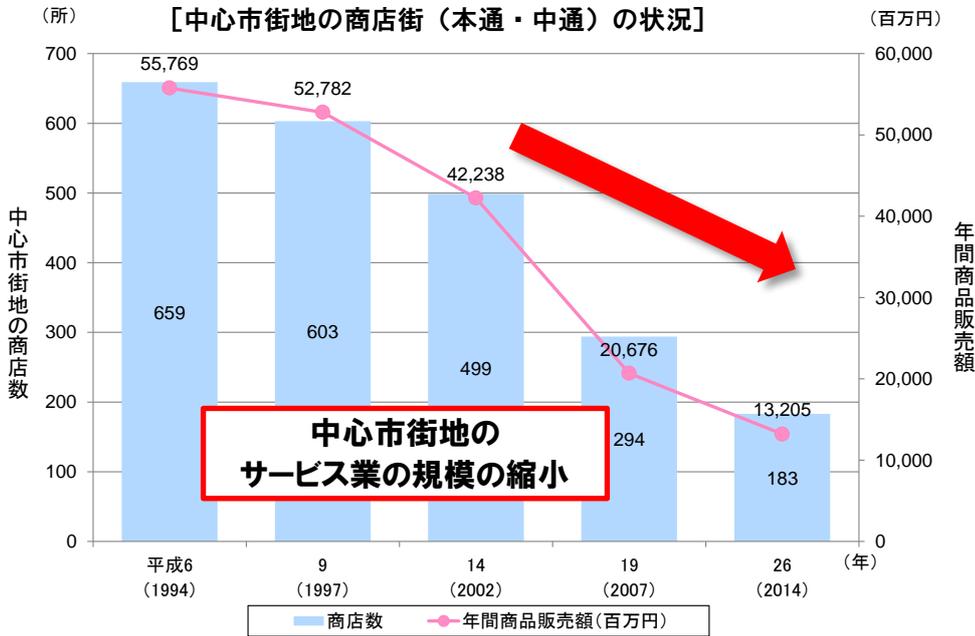
出典：呉市資料（令和元年度）

都市基盤整備については、限られた財源の中で効率的・効果的な施設の整備を行うとともに、既に整備された都市基盤についても効率的で効果的な維持管理を行う必要があります。

## (10) にぎわいと交流

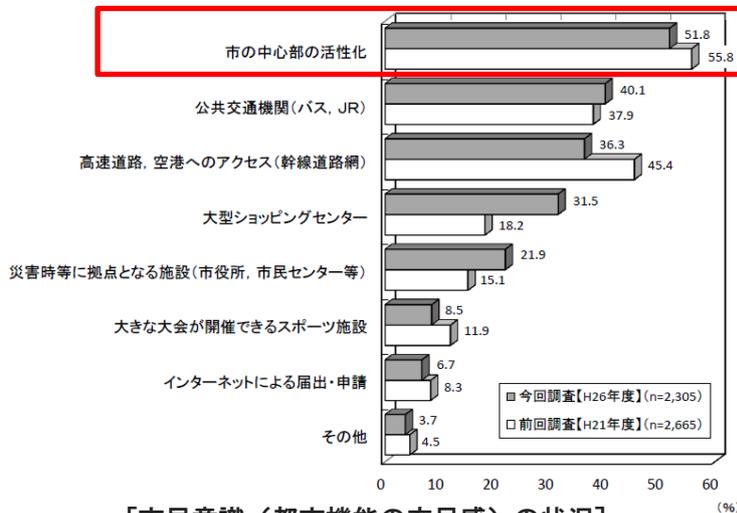
### ■にぎわいと交流を生むサービス業の状況 - サービス業の規模が縮小しています。

- ・ 中心市街地の商店街の状況を見ると、商店数及び年間商品販売額ともに減少し続けており、平成26年には商店数が平成6年の約3分の1まで減少しています。
- ・ 市民意識調査によると、市の中心部の活性化が求められており、若者の都市機能の充足感も低い状況です。



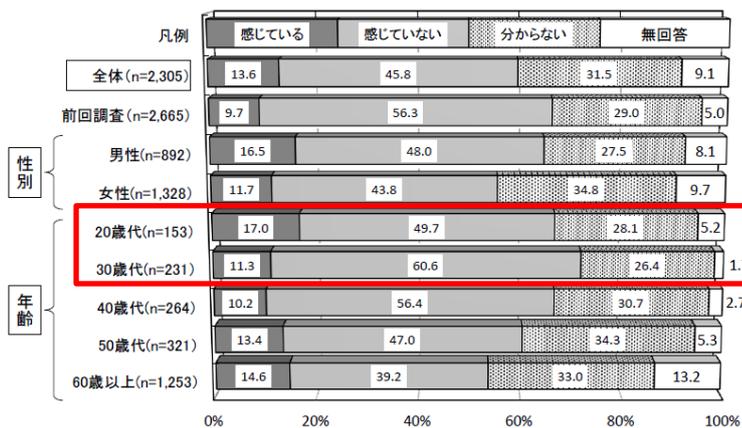
出典：経済産業省「商業統計調査（立地環境特性別）」

### 【市民意識（求められる都市機能）の状況】



中心市街地の活性化が求められている。

### 【市民意識（都市機能の充足感）の状況】



若者のニーズとして都市機能の充実が求められている。

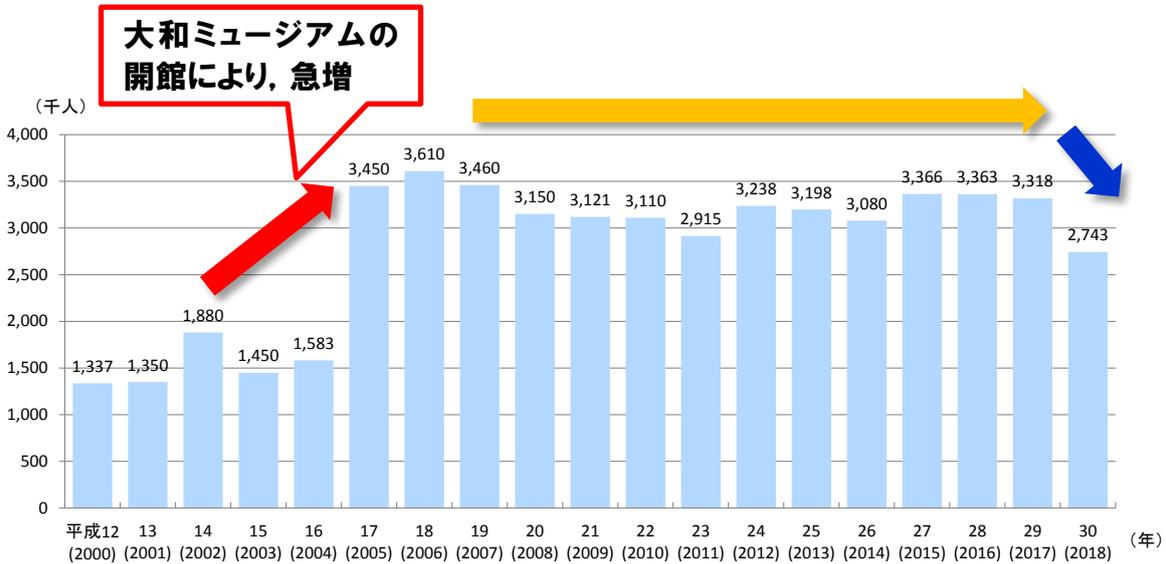
出典：呉市「呉市民意識調査結果報告（平成26年度）」

中心市街地のサービス業の規模が縮小しており、雇用の減少やにぎわいの低下に歯止めを掛けるために、中心市街地の魅力を高める必要があります。

■観光交流の動向 - 大和ミュージアム周辺のみの限定的なにぎわいと交流となっています。

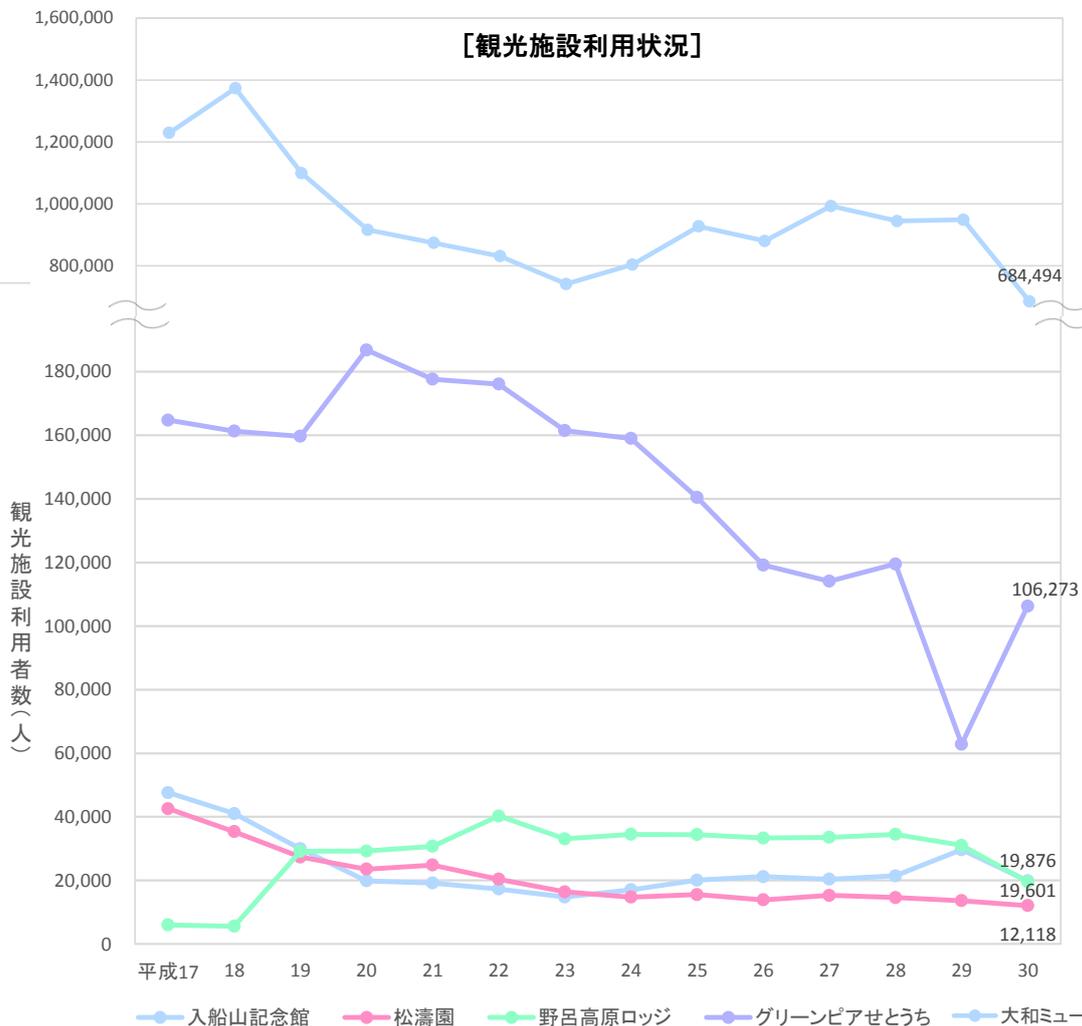
- ・ 呉市への観光入込客数は、平成 17 年度の大和ミュージアムの開館により急増し、それ以降は横ばい傾向にありましたが、平成 30 年に 7 月豪雨災害の影響により減少に転じています。
- ・ 本市の主要な観光施設の利用状況は、大和ミュージアムが年間約 90 万人（平成 30 年は 7 月豪雨災害の影響により一時的に減少）で他の施設を大きく引き離しており、周辺エリアの観光施設においては、大和ミュージアムの 1 割程度以下となっています。

【観光入込客数の推移】



出典：呉市資料

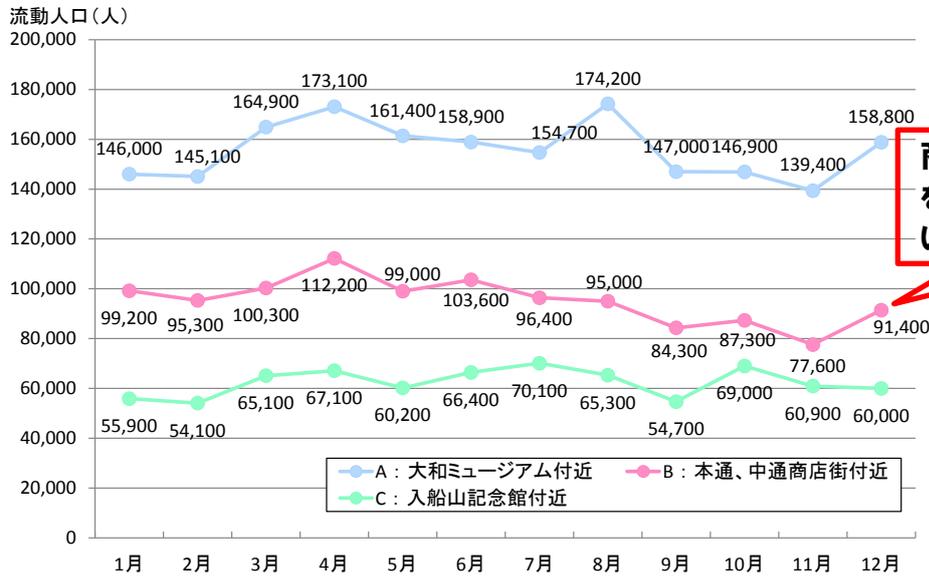
【観光施設利用状況】



出典：呉市資料（平成 30 年）

- ・市の中心部の主要観光施設の月ごとの流動人口をみると、大和ミュージアム付近に流動人口が集中しており、そのほかのエリアは流動人口が少なくなっています。
- ・また、大和ミュージアムと入船山記念館等の間には、一定の回遊はみられるものの、本通、中通商店街の来街者数に影響を及ぼすほどの中心市街地での回遊はないと考えられます。

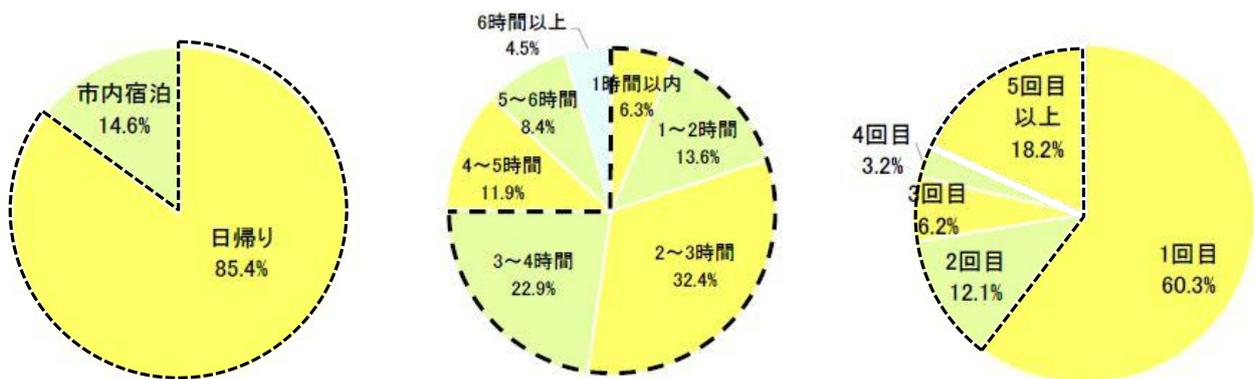
【主要観光施設周辺の流動人口（平成 28 年月別推移）】



商店街の来街者に影響を及ぼすほどの回遊はないと考えられる。

出典：地域経済分析システム（RESAS）のデータを基に作成

- ・呉市を訪れる人の滞在は、日帰りが多く、約 85% を占めています。
- ・日帰り客の 4 分の 3 が、4 時間未満の滞在となっています。
- ・呉市への来訪が 2 回以上となるリピーター訪問者が約 4 割存在します。



日帰りが多く、滞在時間も短い

出典：呉市「市中心部におけるにぎわいの更なる創出・向上に向けて（平成 29 年 5 月行政報告資料）」

大和ミュージアム周辺に観光客が集中しており、本通・中通商店街などの中心市街地への来街者数に影響を及ぼすほどの回遊性がないことが推察されます。商店街や飲食店の魅力を高め、周遊・滞在・交流を促し、中心市街地の活性化に取り組む必要があります。

### 3 呉市の現況と課題

#### 【呉市の現況】

<b>人口</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口減少が続き、令和 17 年には、平成 27 年の 4 分の 3 の約 17.5 万人に減少する。年齢 3 区分の比率は変化しないが、全ての区分で人口が減少する。</li> <li>高齢化率は約 35%となり、高齢人口と生産年齢人口の比率も 1:1.5 程度となる。</li> <li>市全域で人口密度が 40 人/ha を下回る低密度市街地が拡大し、都市拠点においても人口密度が低下する。</li> </ul>
<b>土地利用</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建物用地の面積が昭和 51 年から平成 28 年の間で約 2 倍に増加するものの、人口が減少していることにより、人口密度が低下している。</li> <li>中央地域では地域の約 28%が斜面市街地で、約 43%の人口が居住している。</li> <li>市全体で空き家が発生し（空き家率約 23%(平成 30 年)), 特に狭あいな道路の多い地域や斜面地に多く分布している。</li> </ul>
<b>都市交通</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通利用者数は市全体で減少傾向にある。</li> <li>総人口の約 71%に当たる市民が、公共交通の利便性の高い徒歩圏内（駅から 800m, バス停から 300m 圏域内）に居住している。</li> </ul>
<b>経済活動</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療、福祉、サービス業等で市全体の従業者数の約 5 割を占める。</li> <li>小売業やサービス業等の事業所数・従業者数は減少しているが、医療、福祉については、事業所数・従業者数も増加している。</li> <li>市内の大学卒業者の市内就職率は約 1 割だが、専門学校・専門学科高校については約 6 割となる。</li> </ul>
<b>財政</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共施設等の改修・更新費用は平成 27 年から令和 22 年の間で直近 10 か年実績の約 1.8 倍になり、年平均約 273 億円が見込まれる。</li> <li>自主財源である市税は平成 19 年から平成 30 年の間で 1 割減少している。：313 億円</li> <li>高齢化の進行に伴い、扶助費は平成 19 年から平成 30 年の間で約 1.4 倍増加している。：226 億円</li> </ul>
<b>地価</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地価は市内全域で長期的に減少傾向にあったが、近年は横ばい傾向にある。</li> </ul>
<b>災害</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口密度が高い中心市街地や斜面市街地で土砂災害警戒区域等が広く指定され、沿岸部では高潮・津波による浸水想定区域、河川沿いにおいては洪水による浸水想定区域が分布している。</li> <li>土砂災害の発生のおそれがある区域に人口の約 4 割、浸水災害の発生のおそれがある区域に約 2 割の市民が居住している。</li> </ul>
<b>都市機能</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療施設の人口カバー率（施設の徒歩圏人口の割合）は約 82%で地方都市平均を上回る。人口当たりの医療機関数は全国・県平均を上回る。</li> <li>介護事業所の高齢人口カバー率は約 60%で地方都市平均を下回る。</li> <li>商業施設の人口カバー率は約 64%で地方都市平均と同程度だが、市民ニーズでは買物環境の充実が望まれる。</li> <li>子育て支援施設の年少人口カバー率は約 65%、母親の就労希望割合は高い。</li> <li>地域によっては不足する生活サービス施設が存在する。</li> </ul>
<b>都市施設</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建築後 30 年以上の老朽化対策の必要な公共施設の割合が平成 27 年から令和 7 年の間で約 20%増加し、約 72%となる。</li> <li>令和元年度における都市計画道路の整備率は約 51%、公園は約 87%、上下水道は約 96%となる。</li> </ul>
<b>にぎわいと交流</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中心市街地（本通・中通）の商店数、販売額は減少し、商店数は平成 6 年から平成 26 年の間で約 3 分の 1 に減少している。</li> <li>大和ミュージアムから中心市街地付近への回遊性が不足している。</li> </ul>

今のままでは・・・

#### 【今後想定される問題】

<b>若年層の流出が続くと・・・</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○呉市の産業や消費、地域づくりを支える人材の不足により、にぎわいが低下</li> <li>○生産年齢人口が減少することにより、高齢者を支える人材が不足し、一人当たりの負担が増加</li> <li>○若年層の減少による更なる人口減少</li> </ul>
<b>中心市街地が衰退すると・・・</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中心市街地のサービス業等の規模の縮小により、都市の魅力の低下</li> <li>○商店数の減少による雇用の喪失</li> <li>○市外から訪れる観光客の回遊性が低下することにより、にぎわいが低下</li> <li>○地価の下落により、税収が減少</li> </ul>
<b>人口密度の低下が進むと・・・</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人口減少に伴う生活サービス施設の利用者が減少することにより、必要な生活サービス施設が撤退し、利便性が低下</li> <li>○生活サービス施設の不足する地域で、施設までのアクセスに要する時間が増加</li> </ul>
<b>財政が悪化すると・・・</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○公共施設や都市基盤の維持管理が困難となる、行政サービスの低下など</li> </ul>
<b>拡大したままのまちでは・・・</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人口減少に伴う生活サービス施設の利用者が減少することにより、必要な生活サービス施設が撤退し、利便性が低下</li> <li>○公共施設や都市基盤の維持管理が困難となる、行政サービスの低下など</li> </ul>
<b>災害の発生のおそれがある斜面地では・・・</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○相当数の人口が災害の発生のおそれがある区域に居住することにより、危険性が継続</li> <li>○世帯減少に伴う、空き家や空き地の増加により、周辺の生活環境や治安が悪化し、生活安全性・地域コミュニティの活力が低下</li> </ul>
<b>公共交通利用者が減少し続けると・・・</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○路線廃止や便数減少などにより、公共交通サービスの利便性が低下し、外出機会が減少</li> <li>○各地域間のネットワークが衰退することにより、地域間連携が妨げられ、生活環境が悪化</li> </ul>

持続可能なまちを目指すためには

#### 都市に関する課題

<b>若年層の定住促進</b>	更なる人口減少に歯止めを掛けるため、呉市の将来を担う若年層の定住促進が必要
<b>中心市街地のにぎわいと交流の促進</b>	都市の魅力の向上のため、中心市街地のにぎわいと交流の促進が必要
<b>生活サービス施設の適正配置</b>	生活利便性を維持するため、地域ごとで必要となる生活サービス施設の適正配置を図ることが必要
<b>公共施設等の適正化</b>	限られた財源の中で、効率的で効果的な行政サービスを行うため公共施設等の「量」と「質」の適正化を図ることが必要

#### 居住に関する課題

<b>居住誘導による人口密度の確保</b>	生活の利便性と行政サービスを維持するため、居住誘導による人口密度の維持が必要
<b>安全・安心な市街地の形成</b>	生活安全性を確保するため、災害の危険性を踏まえた、安全・安心な市街地の形成が必要

#### 公共交通に関する課題

<b>移動ニーズへの対応と拠点間を結ぶ公共交通ネットワークの確保</b>	生活利便性を維持するため、移動ニーズへの対応と拠点間を結ぶ効率的・効果的な公共交通ネットワークの確保が必要
--------------------------------------	---